天栄村人口ビジョン

改訂版

令和７年３月

天栄村

目次

Ⅰ　人口ビジョンについて……1
1　策定の趣旨……1
2　天栄村人口ビジョンの位置づけ……1
3　対象期間……1
4　まち・ひと・しごと創生長期ビジョンの概要……2
5　福島県人口ビジョンの概要……3
Ⅱ　天栄村の人口動向の現状と見通し……4
1　現状分析……4
（1）人口動向……4
（2）自然動態……8
（3）社会動態……11
（4）その他の分析……14
2　天栄村の将来人口の推計……21
（1）趨勢人口と戦略人口……21
（2）人口推計の基本的な考え方……21
（3）天栄村の趨勢人口の見通し……22
（4）将来人口シミュレーション……24
3　天栄村における人口動向・構造の特性と課題……33
Ⅲ　人口の将来展望……36
1　将来展望に必要な調査・分析……36
（1）アンケートの実施概要……36
（2）アンケートの結果概要……36
2　目指すべき将来の方向性……45
3　人口の将来展望……46
（1）戦略人口……46
（2）戦略人口に基づく将来展望……47
（3）まとめとしての将来展望……51

Ⅰ　人口ビジョンについて

１　策定の趣旨

我が国では、2008 年の１億 2,808 万人をピークに人口減少局面に入り、2020 年に１億 2,615 万人となり、今後も年少人口の減少と老年人口の増加を伴いながら、2070 年に 8,700 万人程度まで減少するという推計が出されています（令和５年の国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という）による人口推計）。また、地域間の雇用や経済格差等によって、若い世代の地方から東京圏への流出、東京圏への一極集中が続いています。

こうした背景に対応するため、「まち・ひと・しごと創生法」と「地域再生法の一部を改正する法律」が成立しました。この「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国では「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定、平成 26 年 12 月 27 日に閣議決定されました。同時に、国は県と市町村へ「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」の策定を努力義務として示しています。

その後、令和元年に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）」及び「第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されました。

令和４年には「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指し、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が策定されました。人口減少・少子高齢化、過疎化・東京圏への一極集中、地域産業の空洞化といった地方の解決すべき社会課題を、デジタルの力を活用することにより加速化・深化させ地方の社会課題解決・地方の魅力向上を目指すものです。

天栄村においては、平成 27 年度に「人口ビジョン」と「第１期まち・ひと・しごと総合戦略」を策定、令和２年度に「第２期まち・ひと・しごと総合戦略」を策定し、人口減少対策と地方創生の実現に取り組んできました。「第２期まち・ひと・しごと総合戦略」が令和６年度で最終年度となるため、新たに「天栄村デジタル田園都市構想総合戦略」の策定を行うとともに、「天栄村人口ビジョン」を改訂します。

２　天栄村人口ビジョンの位置づけ

天栄村人口ビジョンは、人口の現状や人口の推計を分析することで、村の人口動向の特性と課題を把握し、目標とする将来人口と、将来人口に基づく将来の展望を提示するものです。また、同時に策定する「天栄村デジタル田園都市構想総合戦略」（以下「総合戦略）」の目標設定や、必要な施策・取組を検討するうえで、重要な基礎資料となります。

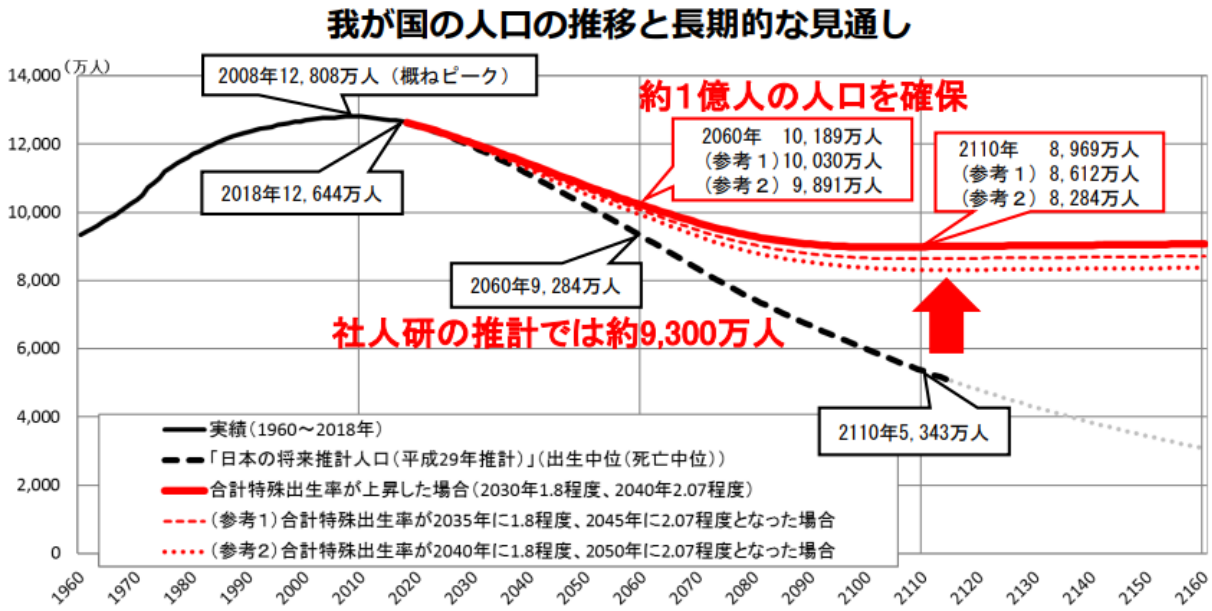
３　対象期間

天栄村人口ビジョンの対象期間は、国の「長期ビジョン」と同じく 2060 年までとします。

4　まち・ひと・しごと創生長期ビジョンの概要

戦後、一貫して増加してきた我が国の総人口は、2008 年をピークに減少に転じており、社人研によると、2070 年には 8,700 万人程度にまで減少すると推計されています。

今後、合計特殊出生率が 2030 年に 1.8 程度、2040 年に 2.07 程度まで上昇すると仮定した場合、2060 年の人口は約 1 億人となり、長期的には 9,000 人程度で安定して推移すると推計されます。



（注1）社人研「日本の将来推計人口（平成29年推計）」出生中位（死亡中位）
（注2）「合計特殊出生率が上昇した場合」は、2030年に1.8程度、2040年に2.07程度となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。
（注3）実績（2018年までの人口）は、総務省「国勢調査」等による（各年10月１日現在の人口）。2115～2160年の点線は社人研の2110年までの仮定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において、機械的に延長したものである。

（国作成資料）

＜国が示す地方創生の目指すべき将来＞

◆将来にわたって「活力ある地域社会」の実現

〇人口減少を和らげる

・結婚・出産・子育ての希望をかなえる

・魅力を育み、ひとが集う

〇地域の外から稼ぐ力を高めるとともに、地域内経済循環を実現する

〇人口減少に適応した地域をつくる

◆「東京圏への一極集中」の是正

5　福島県人口ビジョンの概要

「福島県人口ビジョン（平成 27 年 11 月策定、令和６年 12 月更新）」においては、以下の基本的な視点及び人口目標を掲げています。

【基本的な視点】

～前提条件～

■推計人口（社人研）：2040 年に 145 万人、2050 年に 125 万人、2060 年に 105 万人

■2040 年に福島県民の希望出生率 1.51（既婚者予定 2.09 人、未婚者理想 1.72 人）を実現（自然動態）

■2030 年に社会動態±０（ゼロ）を実現（社会動態）

⇒上記条件が実現した場合、福島県の人口は 2040 年に 147 万人程度
2050 年に 129 万人程度
2060 年に 112 万人程度　を維持

【人口目標】

2040 年に福島県の総人口“１５０万人程度の維持”を目指す！

Ⅱ　天栄村の人口動向の現状と見通し

Ⅰ　現状分析

過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析することにより、必要な施策の検討材料を得ることを目的として、時系列による人口動向や年齢階級別の人口移動分析を行います。

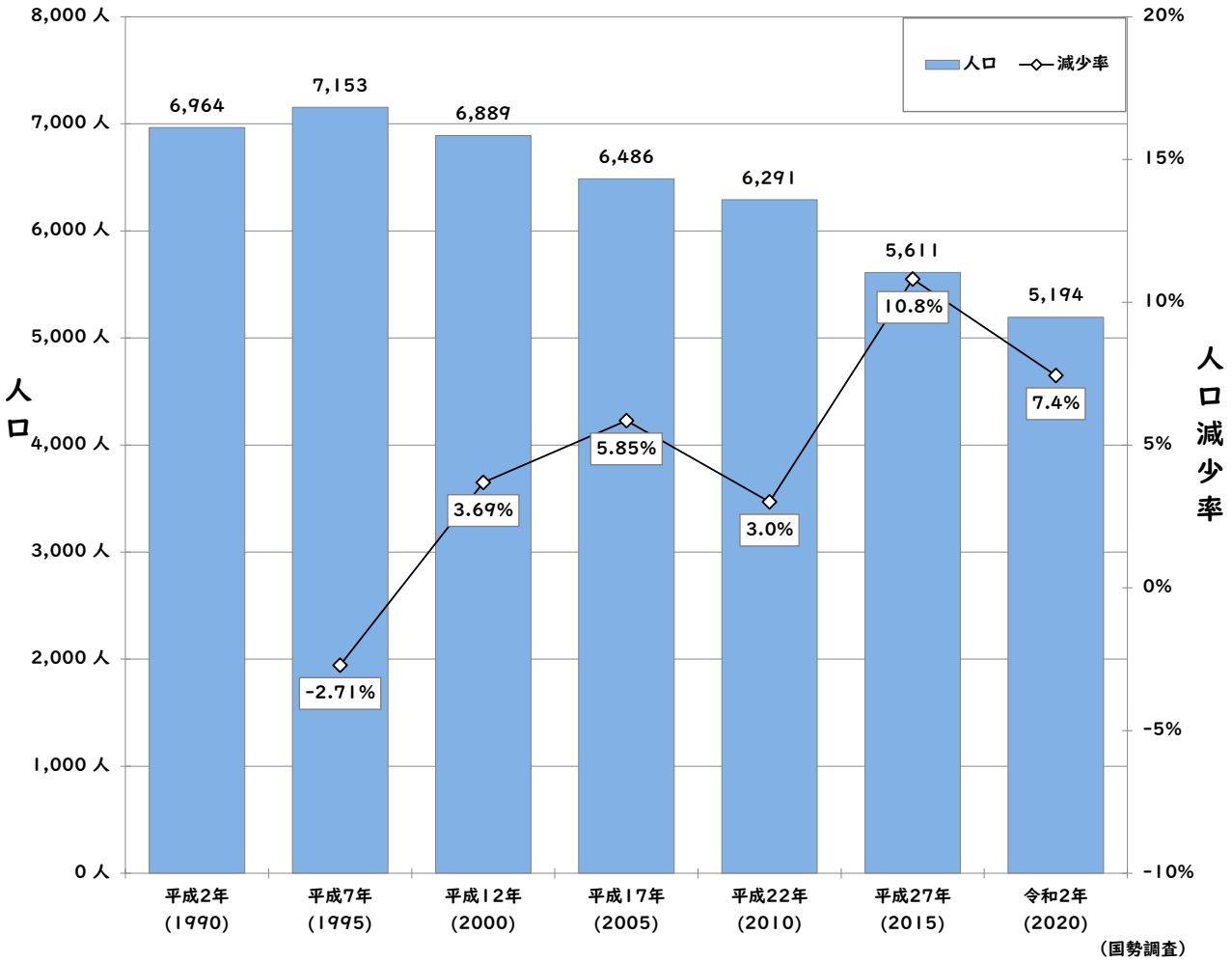
（１）人口動向

①　総人口の推移

近年の人口の動向をみると、全体的に減少して推移しています。平成７年に１度人口が増加しますが、平成 12 年以降は減少して推移していて、令和２年の人口は 5,194 人となっています。

人口減少率は平成 22 年～平成 27 年にかけて 10.8%となりましたが、平成 27 年～令和２年にかけては 7.4%となり緩和しています。

人口と人口減少率の推移

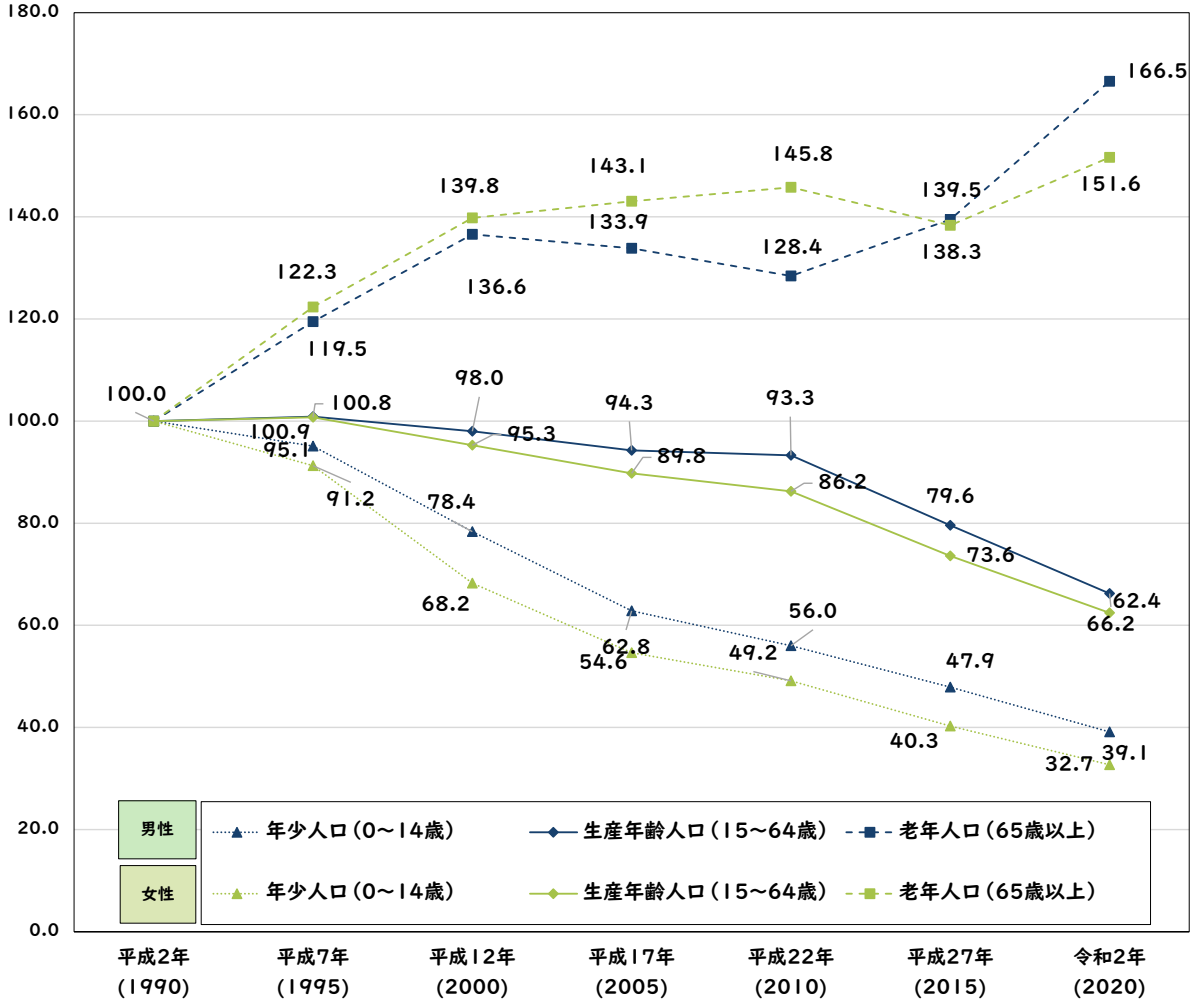


※人口減少率は各年の5年前の人口に対する減少率

②　人口変化指数

天栄村の平成２年の人口を 100 とした場合の変化指数の推移を男女別、年齢別で比較すると、男女ともに年少人口が減少し、老年人口が増加していることが分かります。特に老年人口は平成 27 年に男女とも 130 強でしたが、令和２年には男性は 166.5、女性は 151.6 と急激に上昇しており、少子高齢化が加速しています。

男女別人口変化指数の推移

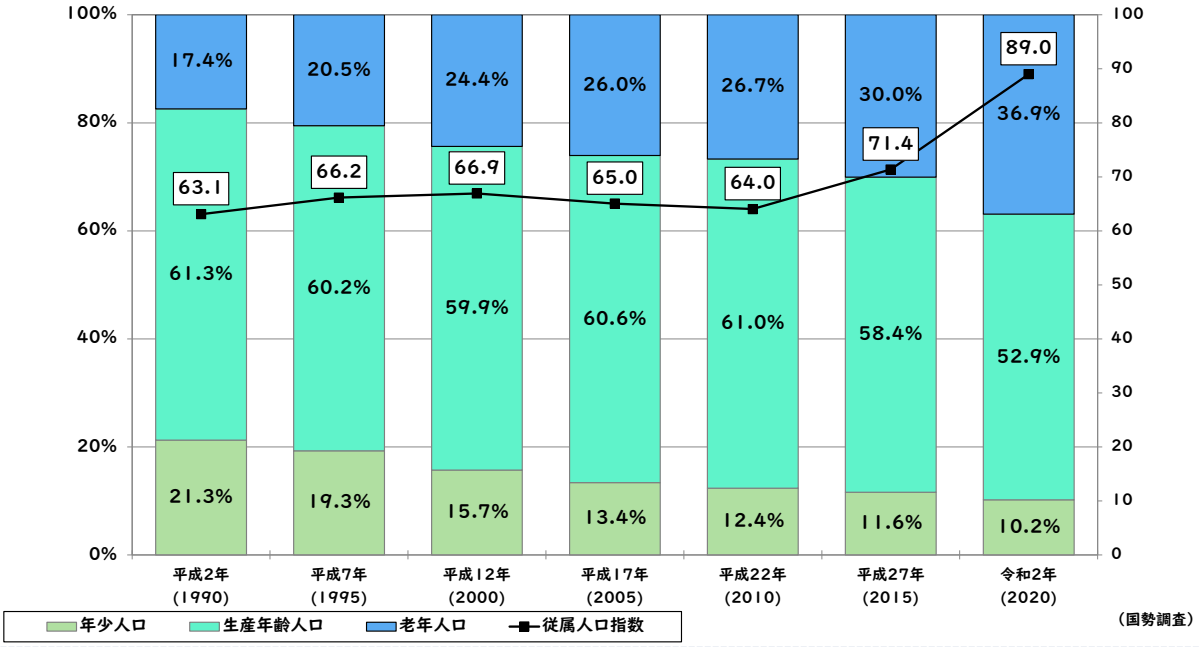


（国勢調査）

③　人口構成比

年齢３区分別の人口構造の推移についてみると、老年人口が平成２年の 17.4%から令和２年には 36.9%と 30 年間で 19.5 ポイント増加している一方で、年少人口は 21.3%から 10.2%と 11.1 ポイント減少しており、少子高齢化が進行していることが分かります。従属人口指数は増加傾向で推移しており、平成２年には 63.1 でしたが、令和２年では 89.0 となっており、生産年齢人口の負担が増大しています。

年齢3区分別人口比率の推移



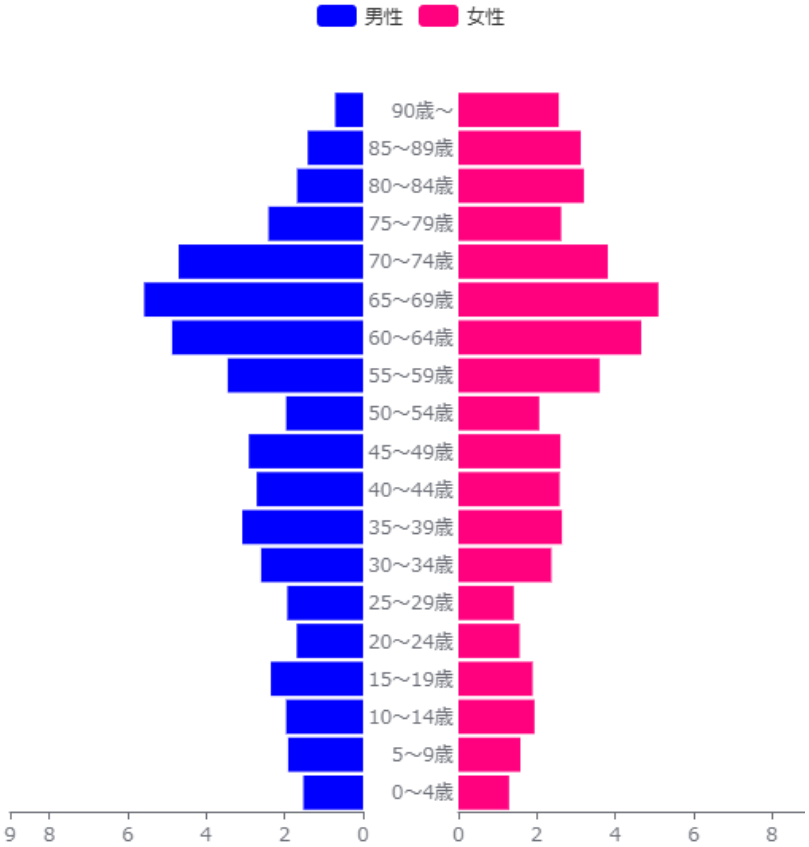
（国勢調査）

※従属人口指数とは、生産年齢人口（15～64 歳）に対する年少人口（0～14 歳）、老年人口（65 歳以上）の合計の比率で、働き手である生産年齢人口 100 人が年少人口と老年人口を何人支えているかを示すものです。

			平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)
人口（人）	年少人口	0～4歳	436	337	253	260	229	173	146
		5～9歳	528	485	351	266	284	205	181
		10～14歳	517	557	479	342	264	273	203
		計	1,481	1,379	1,083	868	777	651	530
	生産年齢人口	15～19歳	365	433	465	408	281	227	220
		20～24歳	263	304	369	338	343	205	169
		25～29歳	369	281	303	348	362	281	173
		30～34歳	520	422	258	290	322	307	258
		35～39歳	586	560	410	242	308	280	297
		40～44歳	443	596	551	395	243	303	275
		45～49歳	312	474	596	527	385	217	286
		50～64歳	1,412	1,235	1,175	1,382	1,591	1,452	1,070
		計	4,270	4,305	4,127	3,930	3,835	3,272	2,748
	老年人口	65～74歳	718	906	963	834	650	743	997
		75歳以上	495	563	716	854	1,029	941	919
		計	1,213	1,469	1,679	1,688	1,679	1,684	1,916
	年齢不詳		0	0	0	221	62	165	535
	総人口		6,964	7,153	6,889	6,486	6,291	5,611	5,194
構成比(%)	年少人口	0～14歳	21.3%	19.3%	15.7%	13.9%	12.5%	12.0%	11.4%
	生産年齢人口	15～64歳	61.3%	60.2%	59.9%	62.7%	61.6%	60.1%	59.0%
	老年人口	65歳以上	17.4%	20.5%	24.4%	26.9%	27.0%	30.9%	41.1%

（国勢調査）

令和２年の天栄村の５歳階級別の人口構造をみると、男女ともに団塊の世代を含む 60～74 歳の人口の割合が多くなっており、今後さらに高齢化が進むことが予測されます。

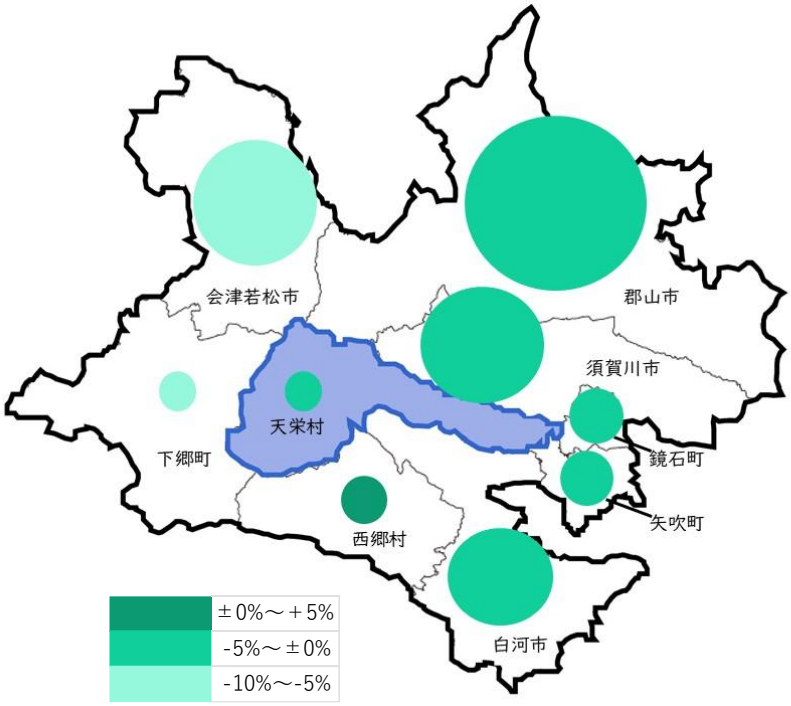


（経済産業省「地域経済分析システム（RESAS）人口マップ／人口構造人口ピラミッドより）

＜参考：周辺自治体の人口の動き（2020～2024 年の増減率）＞

	人口（人）	増加率
会津若松市	112,445	95.0%
鏡石町	12,436	98.5%
郡山市	315,155	97.6%
西郷村	20,494	101.0%
下郷町	4,986	89.3%
白河市	57,869	95.6%
須賀川市	73,828	96.7%
天栄村	5,245	93.2%
矢吹町	16,944	97.6%

（住民基本台帳）

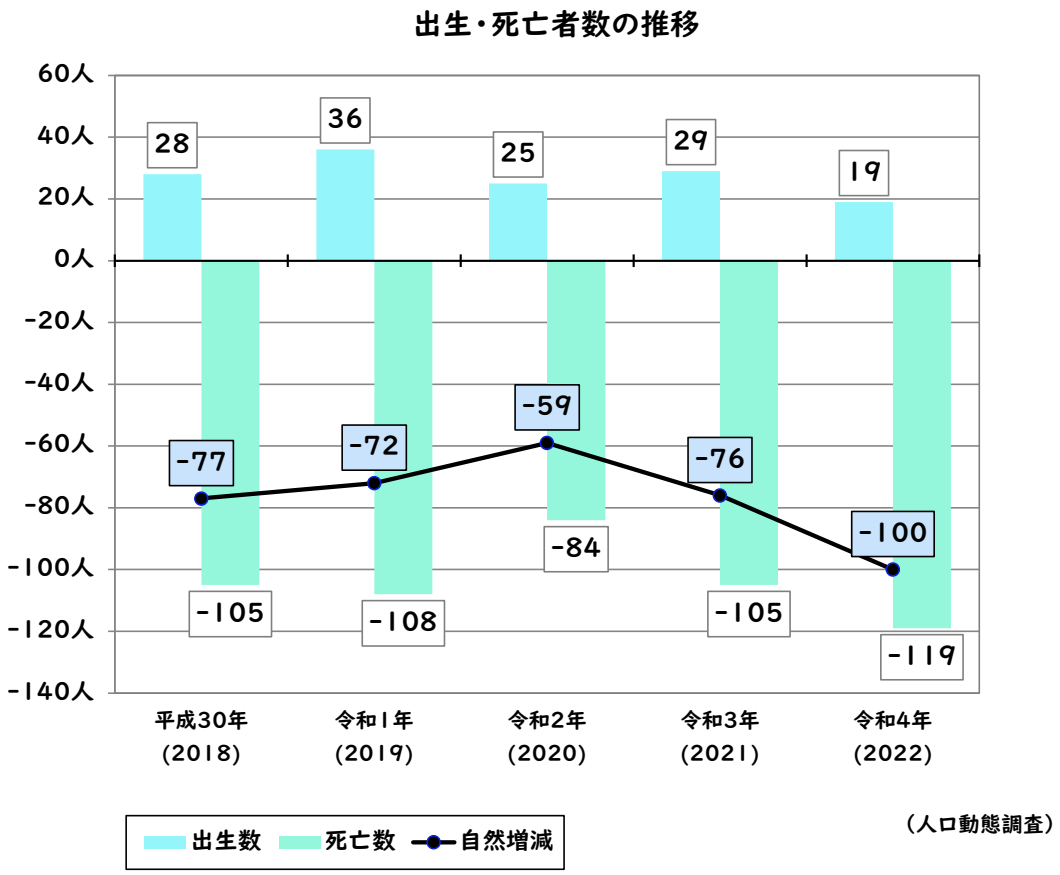


（２）自然動態

①　出生・死亡数の推移

平成 30～令和４年の５年間の出生・死亡者数をみると、出生数、死亡数はともに増減を繰り返して推移しており、令和４年には過去５年で最大の－100 人の自然減となっています。

５年間の自然増減の平均は－76.8 人となっています。

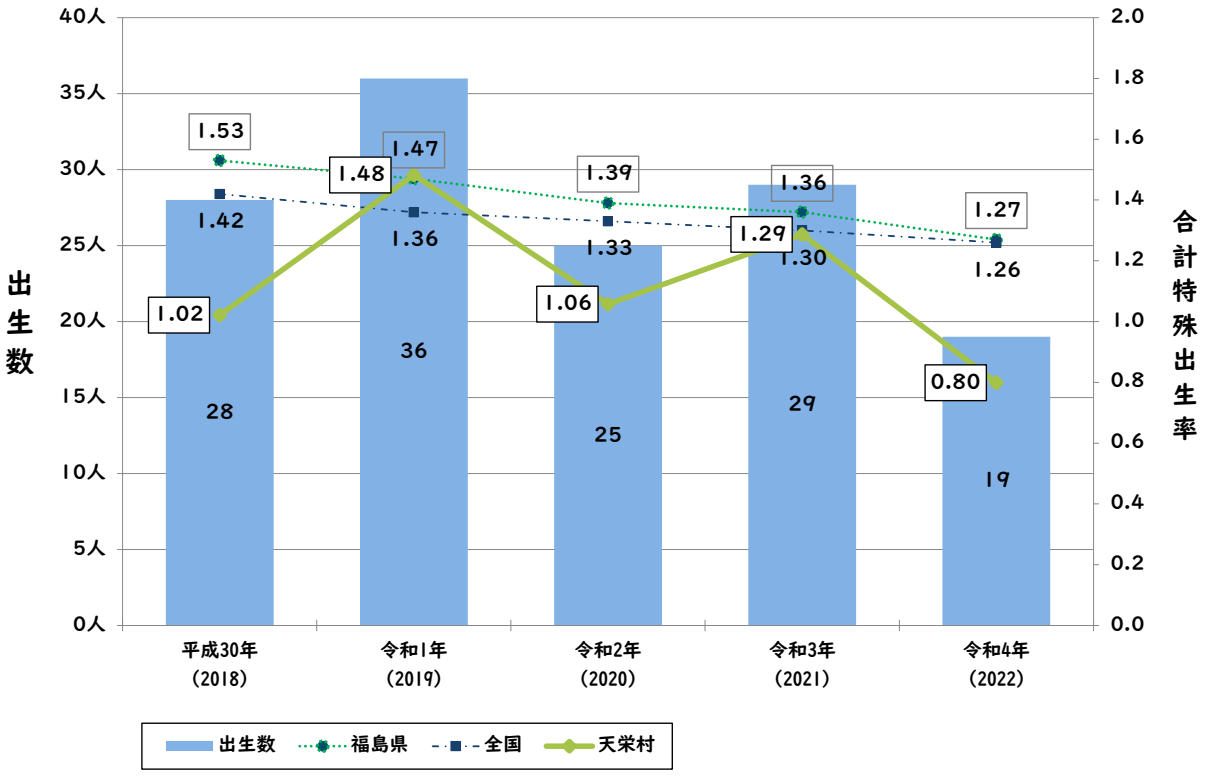


（人口動態調査）

② 出生状況

平成 30 年～令和４年の５年間の合計特殊出生率の推移をみると、全国・福島県はやや減少しながら推移しています。天栄村は増減を繰り返しており、令和元年は全国・福島県をともに上回る 1.48 となり過去５年間で最も高くなっていますが、令和４年には 0.80 と最も低くなっています。

出生数と合計特殊出生率の推移



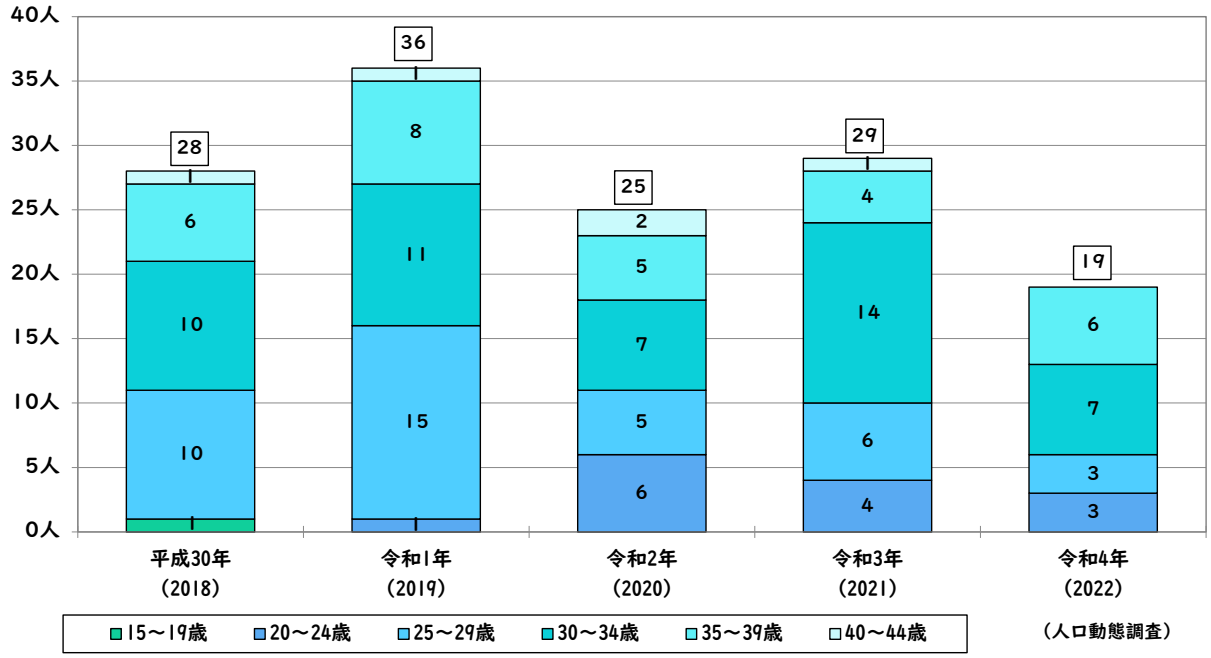
※出生数（人口動態調査）
※合計特殊出生率（全国、福島県は人口動態調査、
天栄村は出生数、女性人口により算出）

※合計特殊出生率とは、一人の女性が一生の間に産む子供の数の平均を表すものです。

～算出方法～
人口動態統計による**母親の年齢５歳階級別出生数**を、**住民基本台帳による 15～49 歳の５歳階級別の女性人口で除した値**【（母親の年齢５歳階級別出生数／15～49 歳の５歳階級別女性人口）×５】の合計

母親の年齢別出生数の推移をみると、令和元年までは“25～29 歳”が最も多くなっていましたが、令和２年では“30～34 歳”が増加し、以降も最も多くなっています。

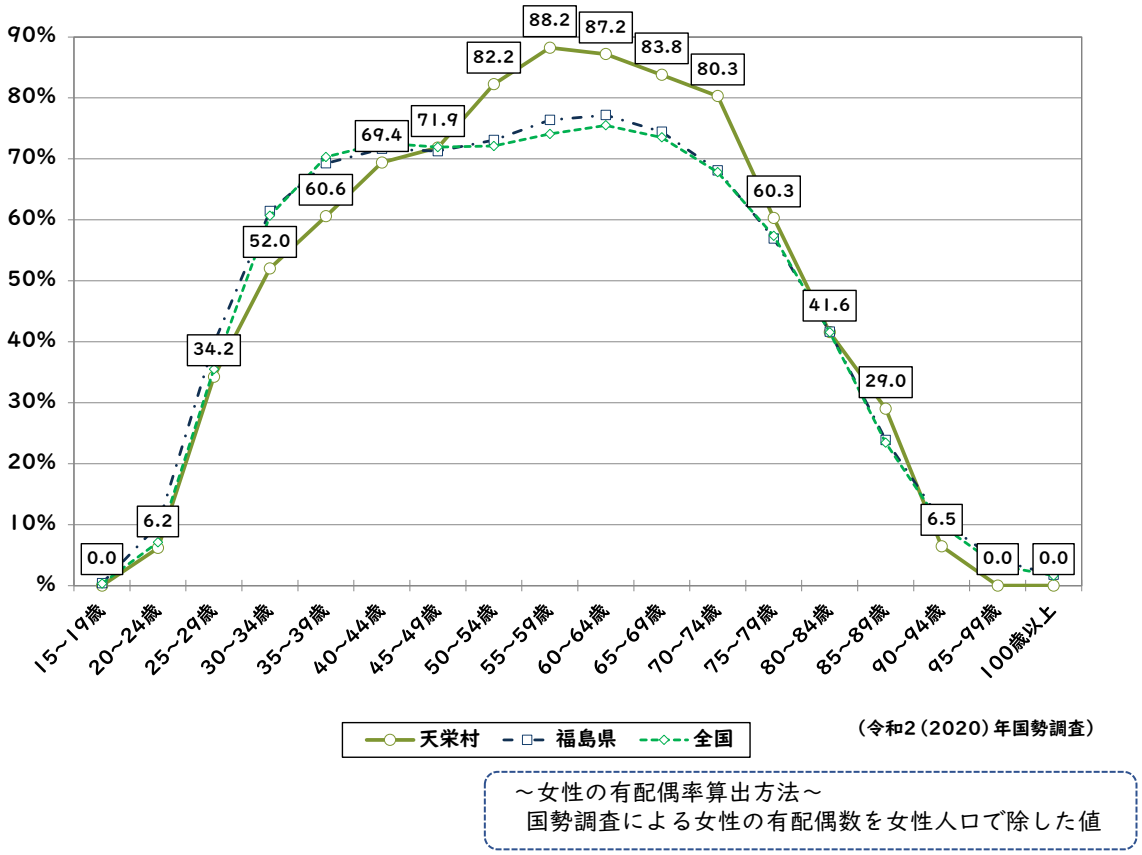
母親の年齢別出生数の推移



令和２年の女性の有配偶率を全国・福島県・天栄村で比較すると、45～89 歳のすべての年代で、全国・福島県に比べて天栄村の有配偶率が高くなっています。

しかし、若い世代の女性の有配偶率は、全国・福島県よりも低くなっており、我が国では出産の多くが嫡出子であることから、出生数にも影響があると思われます。

女性の有配偶者率

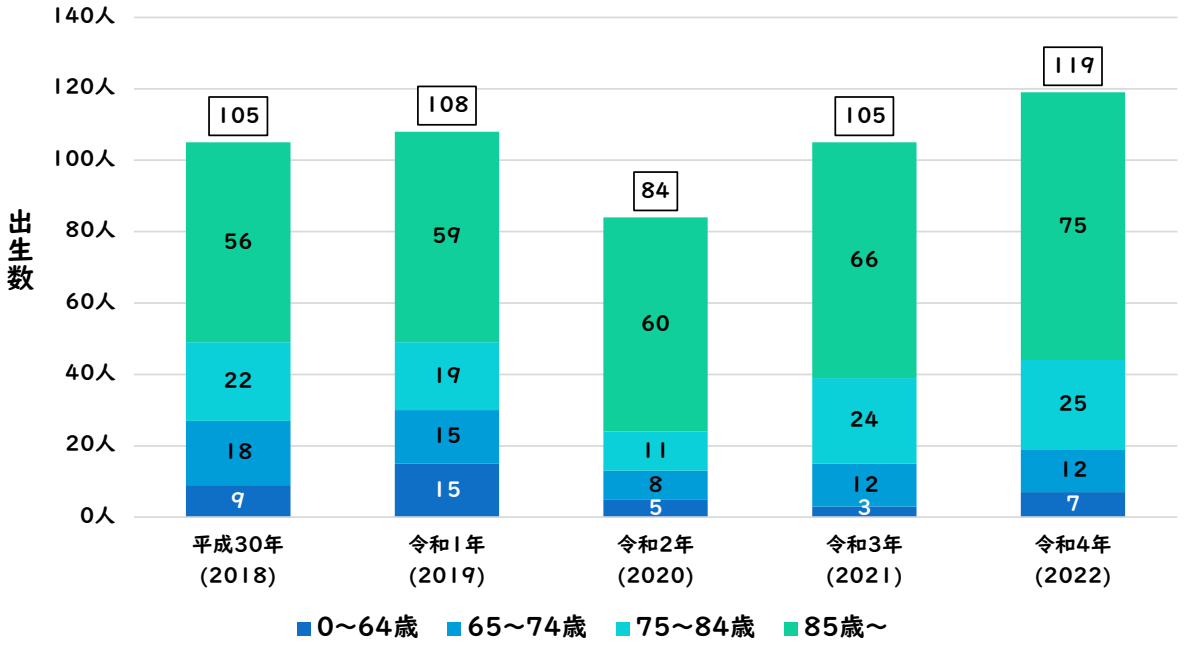


～女性の有配偶率算出方法～
国勢調査による女性の有配偶数を女性人口で除した値

③　死亡の状況

平成 30～令和４年の５年間の年齢別死亡者数は、令和２年以外は 100 人程度で推移しています。年齢別にみると、過去５年間ではすべて 85 歳以上の死亡者数が半数を超えています。

年齢別死亡者数の推移

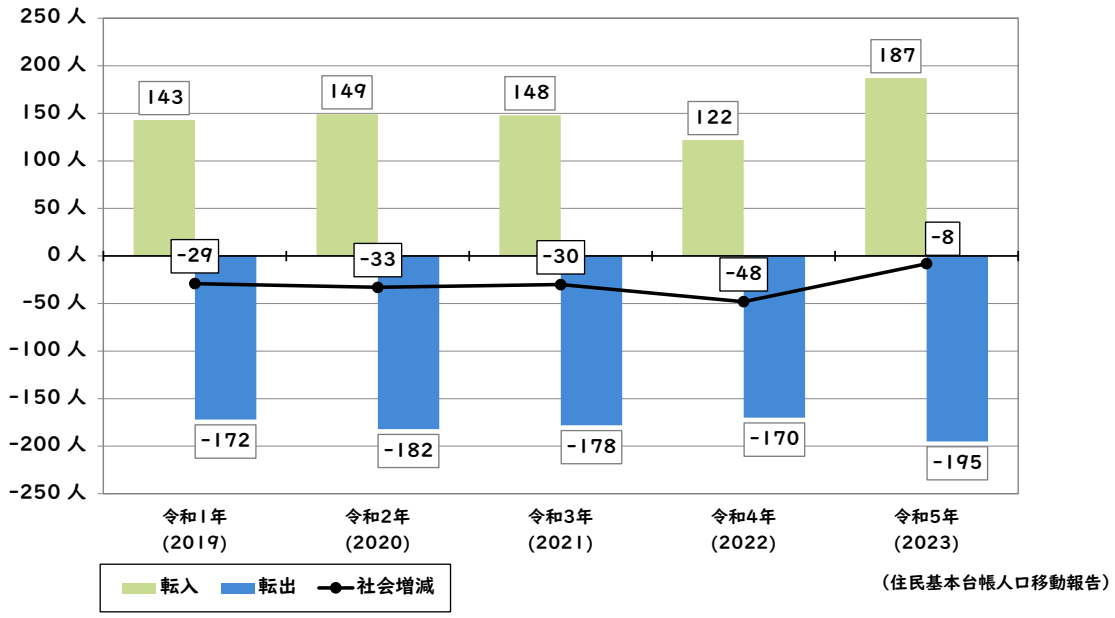


（３）社会動態

①　転出・転入者の推移

令和元年～５年の５年間の転入・転出者数をみると、転入者数・転出者数ともに増減を繰り返して推移しています。社会増減は一貫してマイナスの範囲で推移していますが、令和５年にかけて回復傾向がみられ、５年間の社会増減の平均は-29.6 人となっています。

転入・転出者数の推移



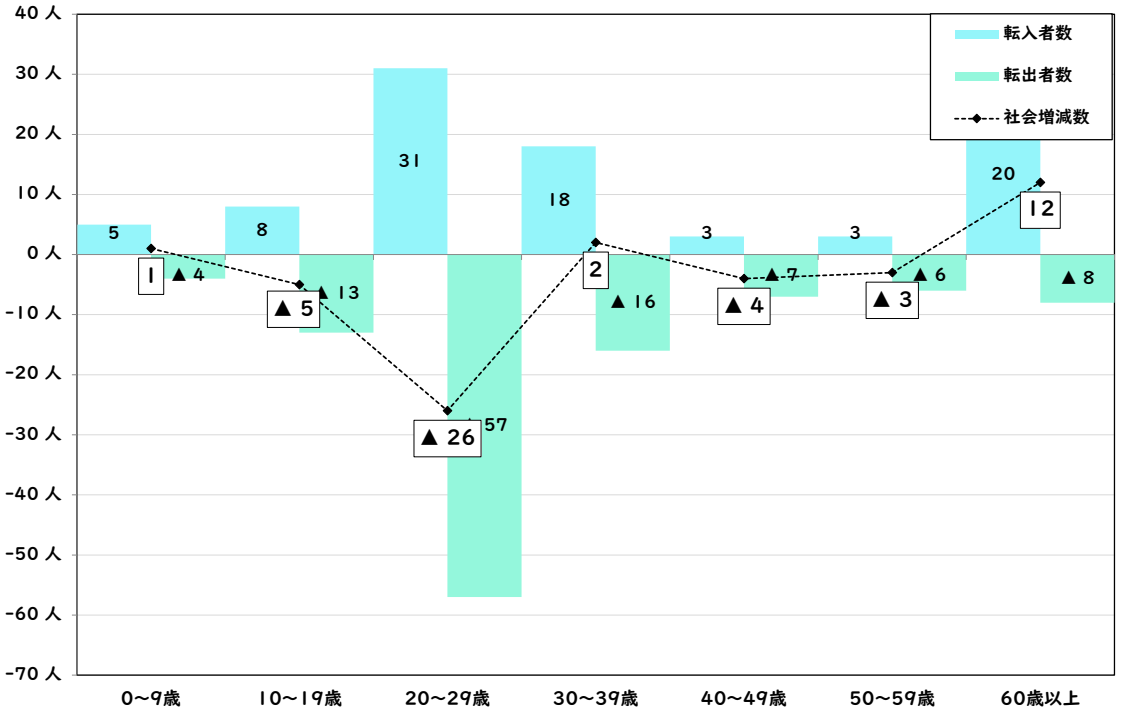
（住民基本台帳人口移動報告）

② 転入・転出の状況

＜年齢別＞

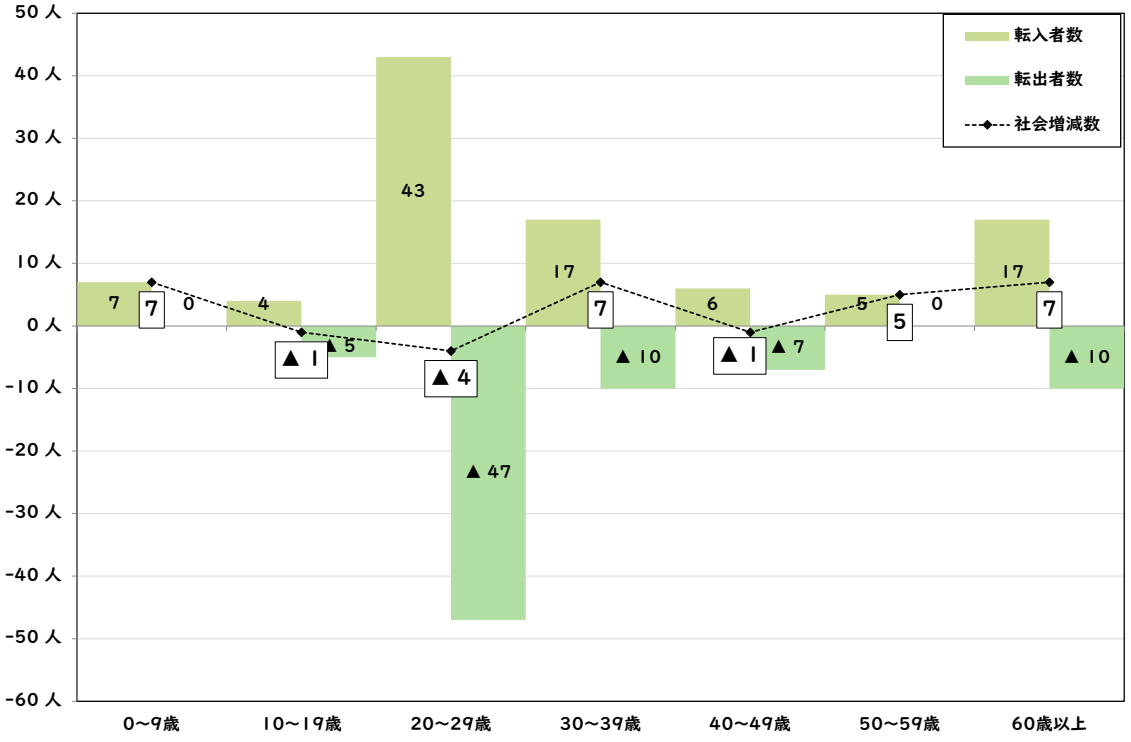
令和５年の転入・転出の状況を性別・年齢別にみると、“20 歳～29 歳”では男女ともに転出が上回っていますが、“０～９歳”、“30～39 歳”、“60 歳以上”では転入が上回っています。

年齢10歳区分別 転入・転出の状況（男性）



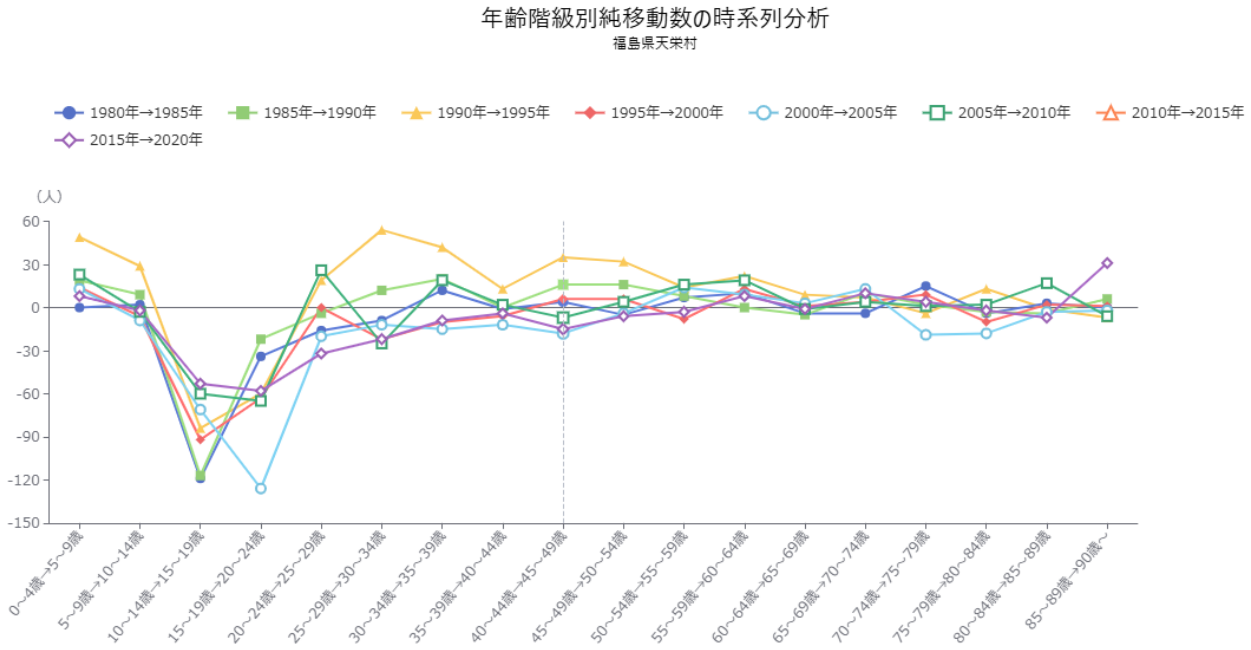
（令和5（2023）年住民基本台帳人口移動報告）

年齢10歳区分別 転入・転出の状況（女性）



（令和5（2023）年住民基本台帳人口移動報告）

年齢階級別純移動数をみると、近年は 10 代、20 代の移動が中心となっており、これは進学、就職、結婚等の移動を伴うライフイベントが要因であると考えられます。

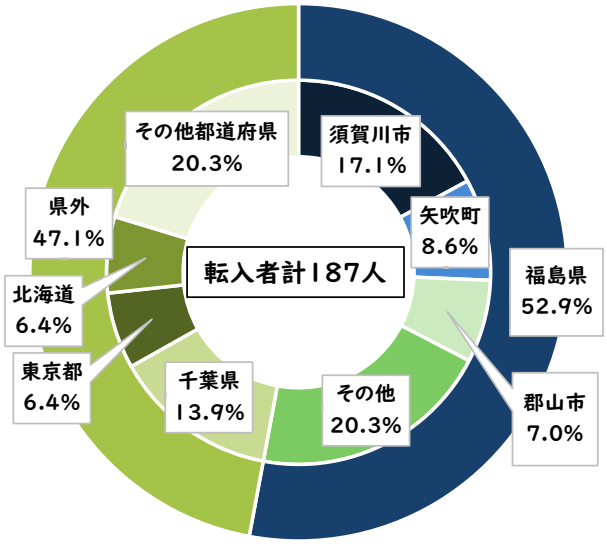


＜居住地別＞

令和５年の転入・転出の状況を居住地別にみると、転入は県内が５割超で、須賀川市が最も多く全体の 17.1%となっています。転出は県内が６割を占め、須賀川市が 19.5%で最も多くなっています。

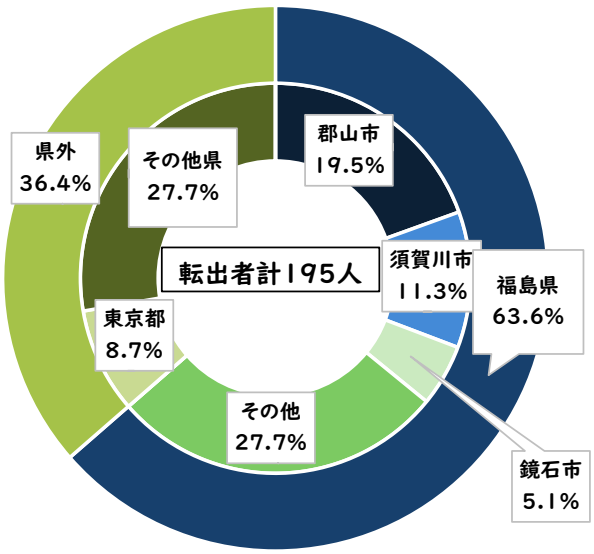
県外では、転入では千葉県が最も多く 13.9%、転出では東京都が最も多く 8.7%となっています。

令和5（2023）年の転入者



令和5(2023)年住民基本台帳

令和5（2023）年の転出者



令和5(2023)年住民基本台帳

（４）その他の分析

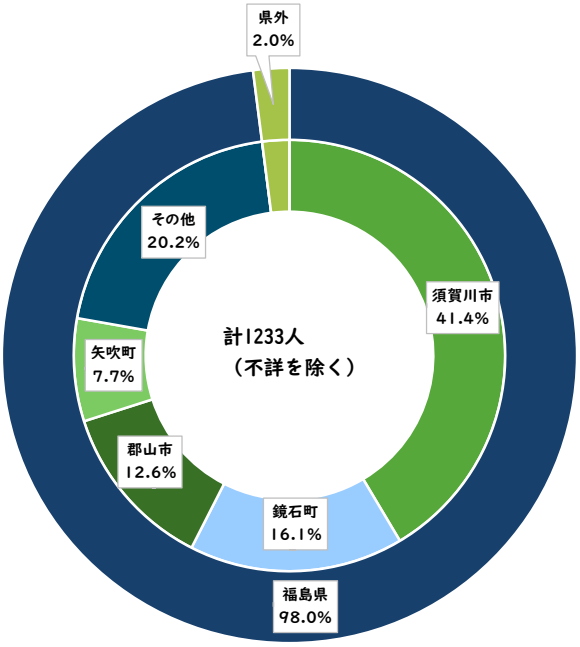
①　通勤通学の状況

令和２年の村内在住の従業・通学者の従業・通学地をみると、村内に通勤・通学している人が 1,607 人となっており、そのうち村外から通勤･通学している人が 1,233 人となっています。また、他市町村へ通勤・通学している人が 1,669 人となっています。

他市町村へ通勤・通学している人の従業・通学地をみると、県内が９割以上を占めており、須賀川市が最も多く、36.4%、次いで郡山市が 18.9%、鏡石町が 10.5%となっています。

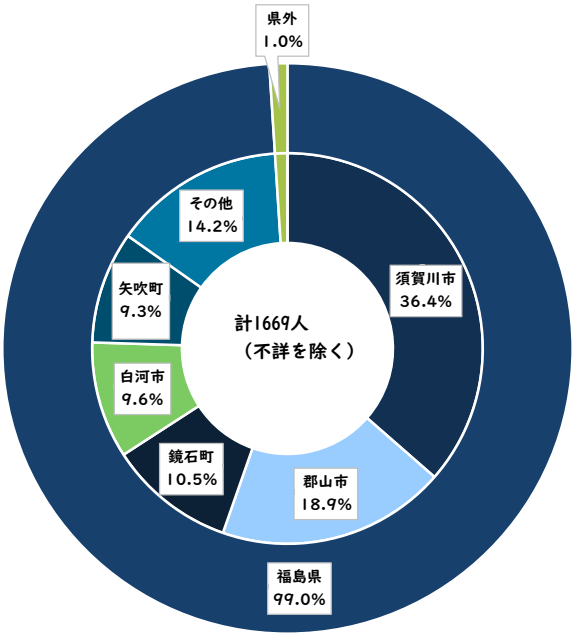
また、他市町村から天栄村へ従業・通学している人の在住地をみると、須賀川市が最も多く 41.4%、次いで鏡石町 16.1%、そして郡山市が 12.6%となっています。

令和２（2020）年の通勤・通学者数(村外→天栄村)



令和2（2020）年国勢調査

令和２（2020)年の通勤・通学者数(天栄村→村外)



令和２（2020）年国勢調査

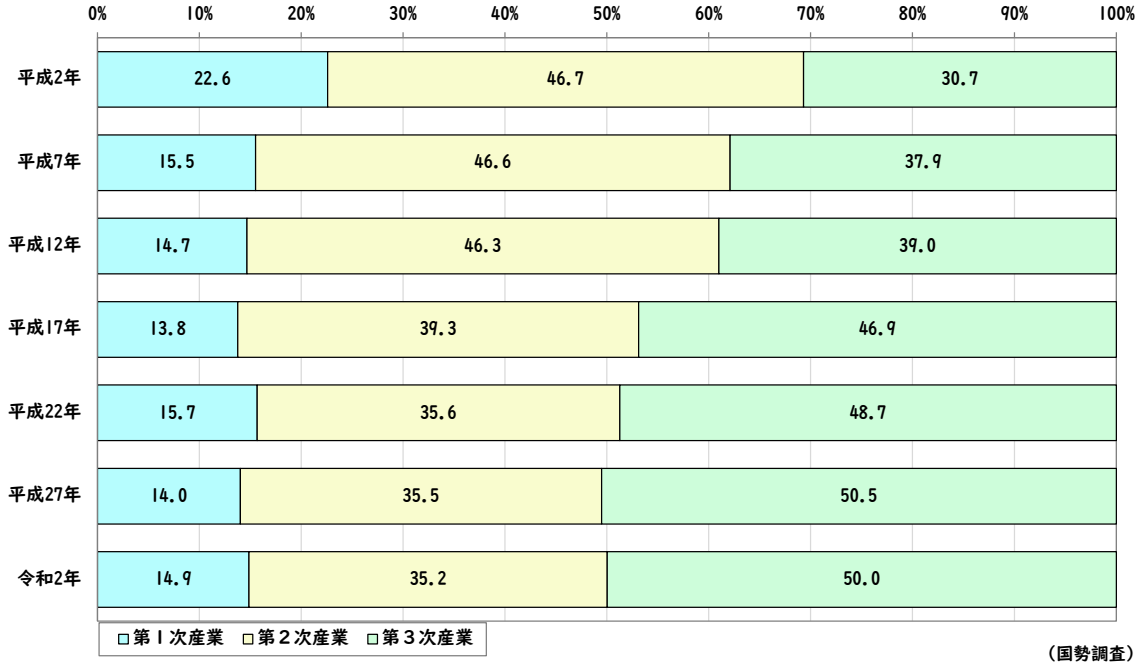
②　産業の状況

＜産業別就業者＞

産業別就業者構成比の推移をみると、平成 27 年までは第３次産業が伸びていましたが、令和２年にかけて減少に転じました。また、第１次産業については、増減を繰り返して推移していましたが、平成 27 年から令和２年にかけて増加しています。

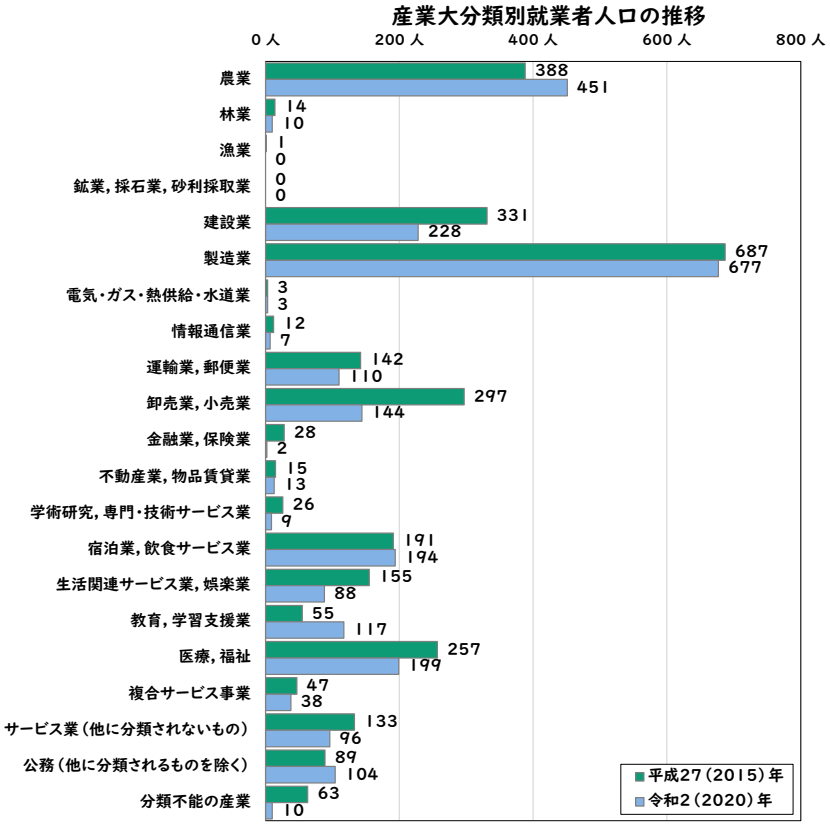
平成２年と令和２年を比べると、第１次産業は-7.7ポイント、第２次産業は-11.5ポイント、第３次産業は+19.3 ポイントとなっています。

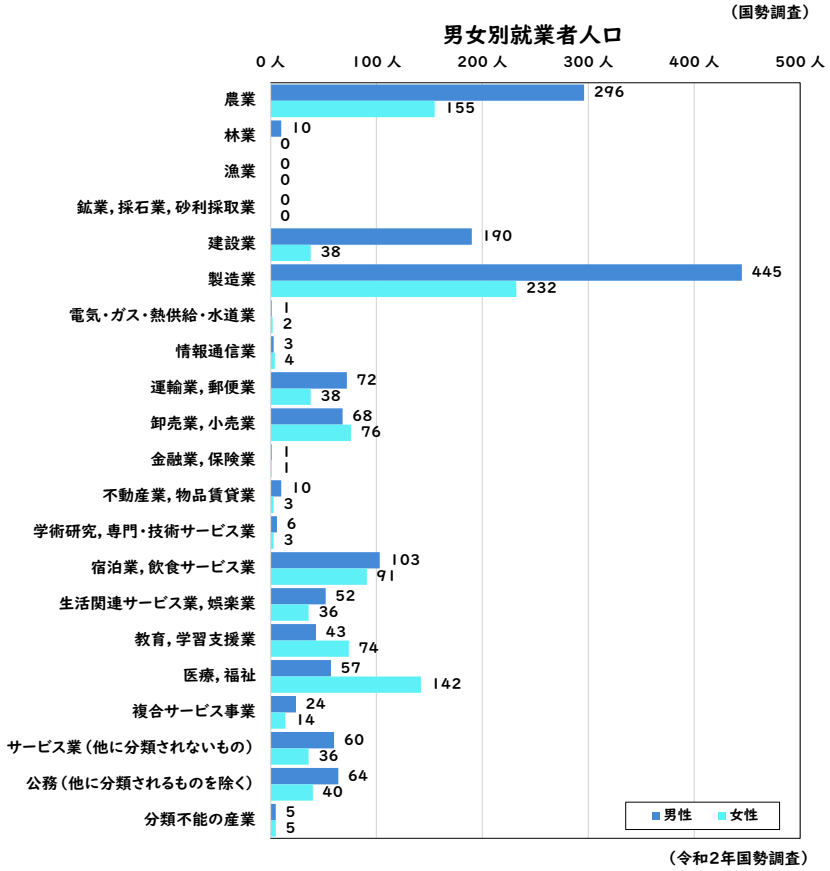
産業３分類別就業者構成比



（国勢調査）
※分類不能を除く

平成 27 年と令和２年の村内従業者の産業別の就業者数をみると、「農業」については平成 27 年の 388 人に対し、令和２年は 451 人となっており就業者数が最も増加しています。一方、「卸売、小売業」は平成 27 年の 297 人に対し、令和２年は 144 人となっており、５年間で最も減少しています。男女別に就業者数をみると、「農業」、「製造業」、「建設業」は圧倒的に男性が多く、「教育、学習支援業」、「医療、福祉」は圧倒的に女性の方が多くなっています。

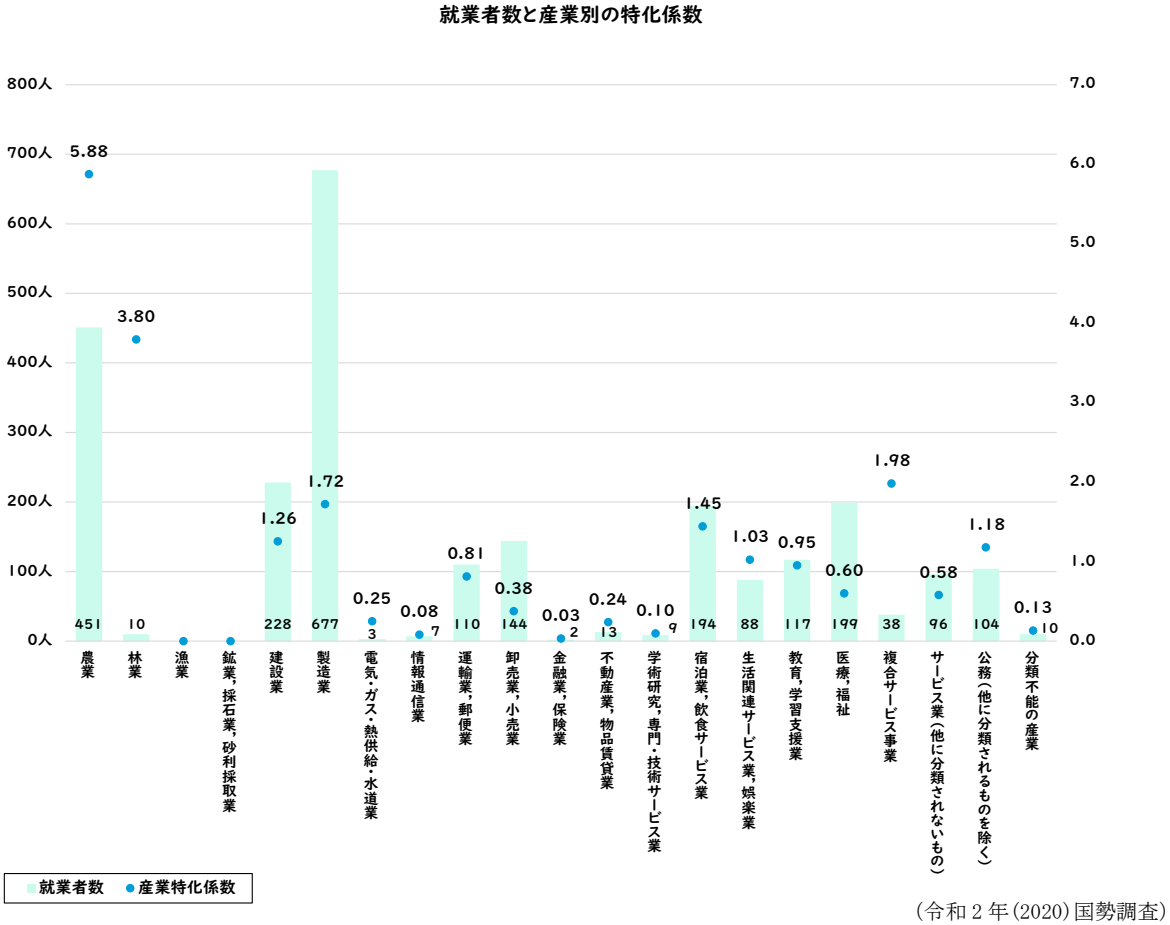




＜産業特化係数＞

産業特化係数とは、各自治体のある産業の比率を全国の同業者の比率と比較したもので、「１」を超えていれば、当該産業は全国に比べ特化している産業とされます。

天栄村における特化係数をみると、「農業」が最も高く 5.87、次いで林業が 3.79 となっており、全国に比べて特化している産業と言えます。



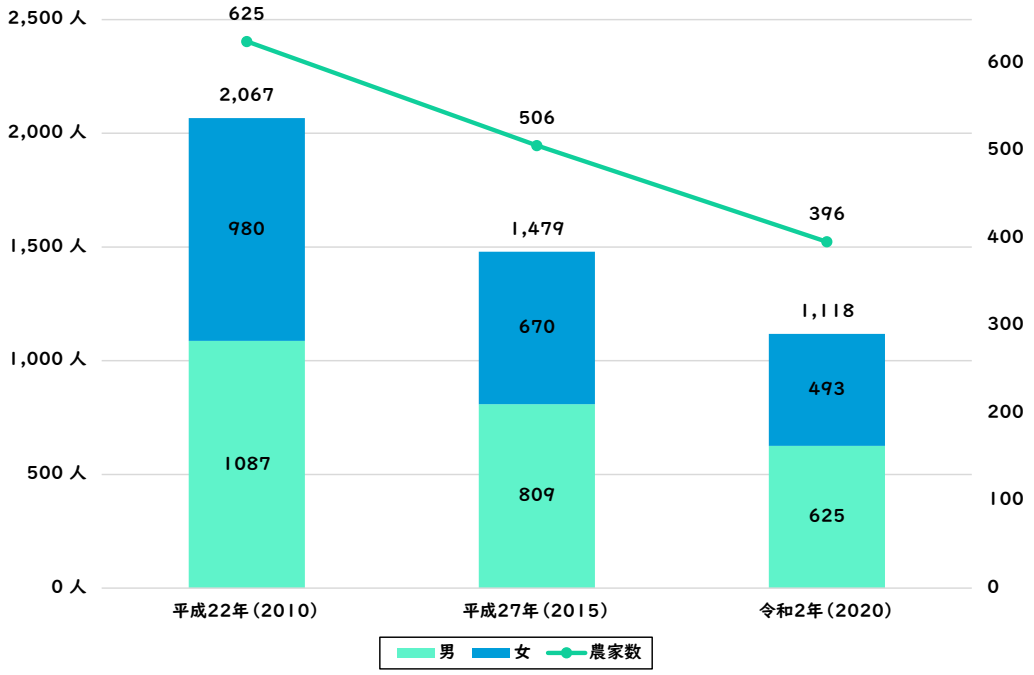
（令和２年(2020)国勢調査）

③　農業の状況

＜農業の状況＞

本村の基幹産業といえる農業ですが、農家数・農業従事者数の推移をみると、どちらも減少傾向となっており、平成 22 年～令和２年の 10 年間で、農家数は 229 戸、農業従事者数は 949 人減少しています。

農家数、農業従事者数の推移（販売農家）

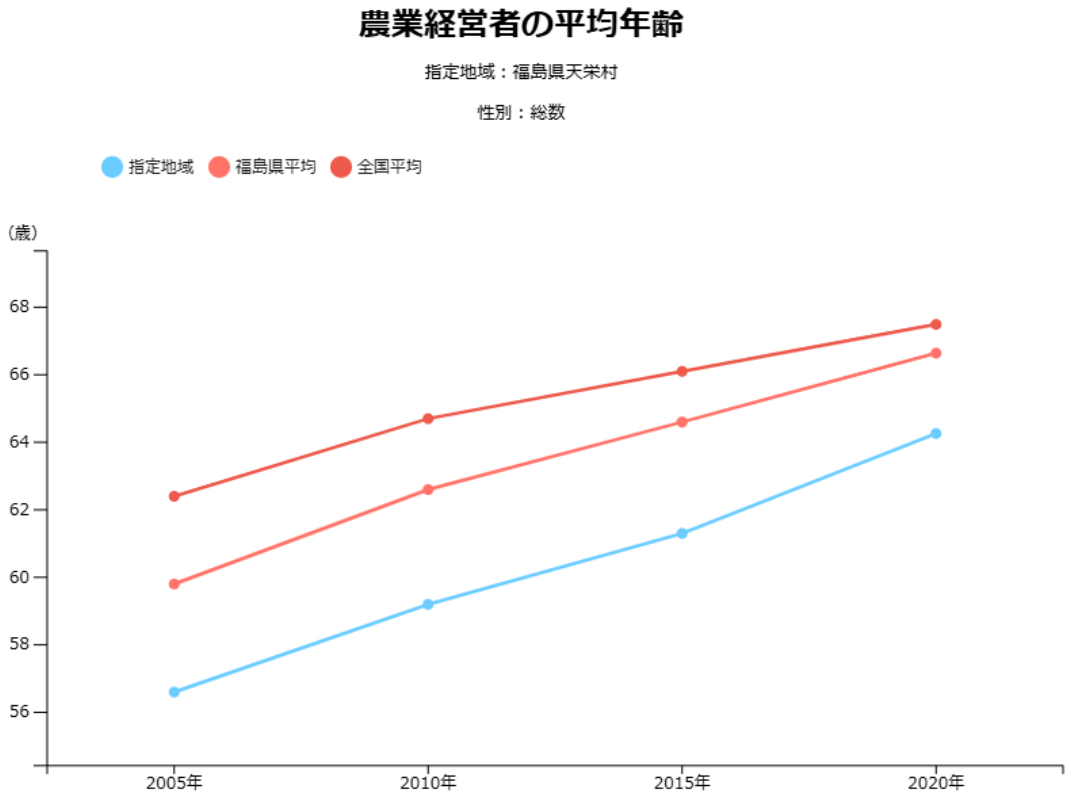


（農林水産省　農業センサスより）

平成 27 年～令和２年の５年間の農業就業人口の年齢構成比の推移をみると、“65～74 歳”の割合が、平成 27 年の 26.5%から令和２年には 42.4%に増えている一方、“55～64 歳”は平成 27 年の 46.3%から令和２年には 35.4%と 10.9%減少しています。

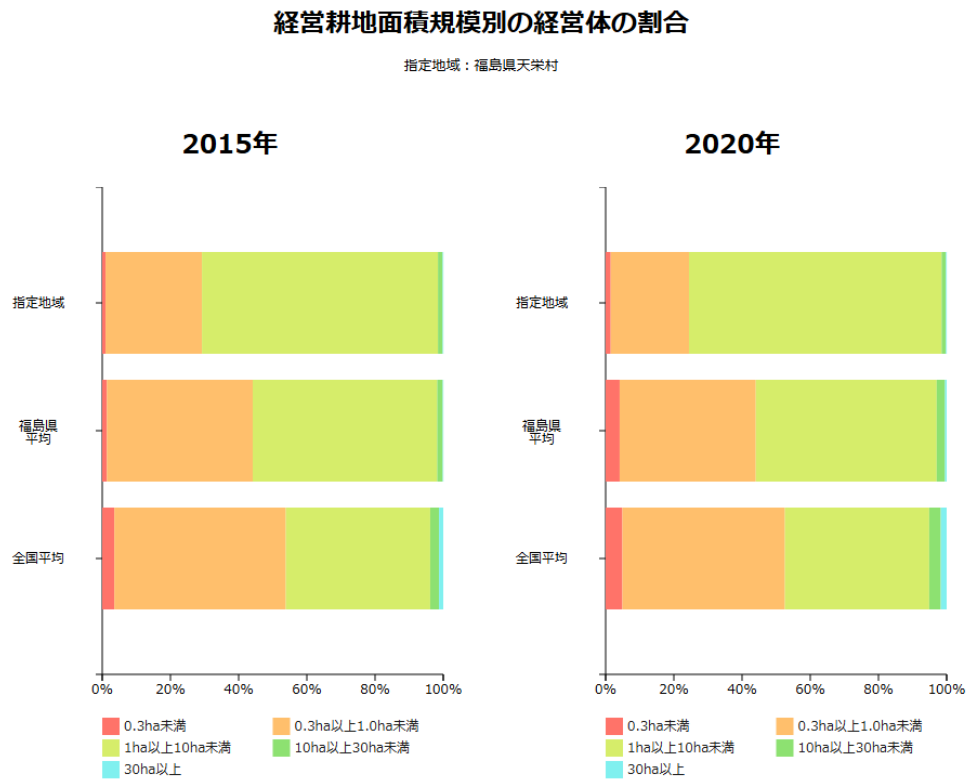
平均年齢は５年間で３歳上がり、令和２年では 64 歳となり、国・県の平均よりも３歳低くなっています。

（経済産業省「地域経済分析システム（RESAS）農林水産業マップ／農業者分析より）



（経済産業省「地域経済分析システム（RESAS）農林水産業マップ／農業者分析より）

経営耕地面積規模別の経営体の割合を平成 27 年と令和２年で比較すると、５年間で大きな変化はありません。天栄村では「１ha 以上 10ha 未満」が最も多く約７割、「0.3ha 以上 1.0ha 未満」が約２割となり、全国・県の平均と比較して、経営耕地面積の広い経営体の割合が多いことが分かります。

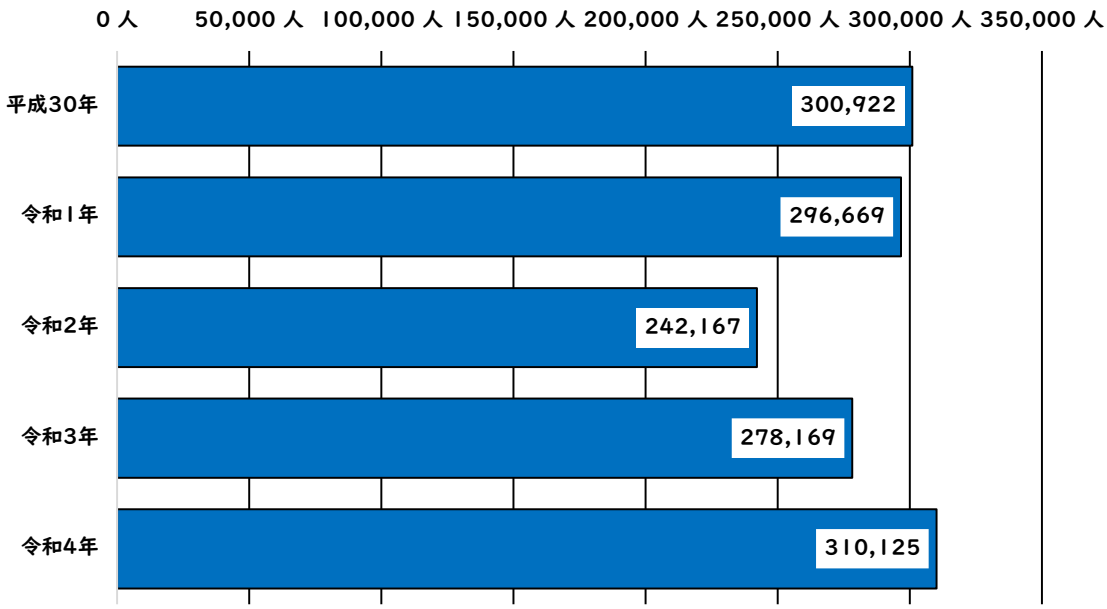


（経済産業省「地域経済分析システム（RESAS）農林水産業マップ／農地分析より）

④　観光の状況

平成 30 年から令和４年までの天栄村の観光客入込数をみると、基本的に 30 万人前後で推移しています。令和２年、令和３年に減少しているのは新型コロナウイルスの流行の影響を受けたものだと考えられ、流行後の令和４年には５年間で最も多い 31 万人程度となっています。

天栄村観光客入込数

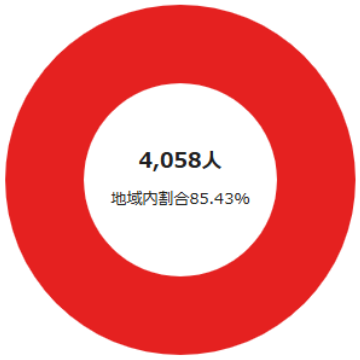


(福島県観光客動態調査)

休日に村内に２時間以上滞在した人口の合計は 4,750 人となっており、そのうち天栄村を除くと 744 人が福島県内から来ています。県外からは 692 人が（14.57%）来ており、内訳は東京都が最も多く 172 人（24.86%）となっています。

滞在人口合計：4,750人（滞在人口率：1.19倍）
（国勢調査人口：4,006人）

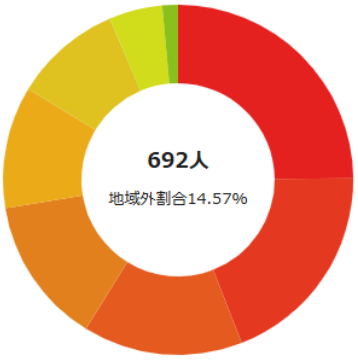
滞在人口 / 都道府県内



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 福島県 4,058人（100.00%）

滞在人口 / 都道府県外



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

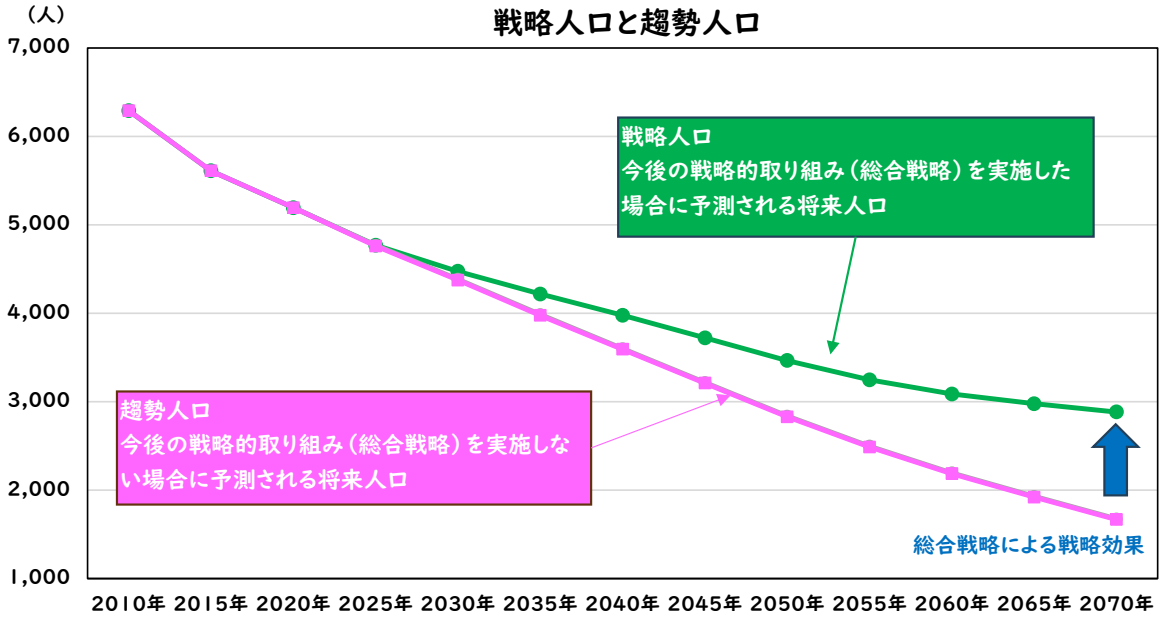
- 1位 東京都 172人（24.86%）
- 2位 栃木県 133人（19.22%）
- 3位 埼玉県 102人（14.74%）
- 4位 千葉県 94人（13.58%）
- 5位 宮城県 78人（11.27%）
- 6位 神奈川県 69人（9.97%）
- 7位 茨城県 34人（4.91%）
- 8位 北海道 10人（1.45%）

（経済産業省「地域経済分析システム（RESAS）観光マップ／From-to 分析（滞在人口）より）

2　天栄村の将来人口の推計

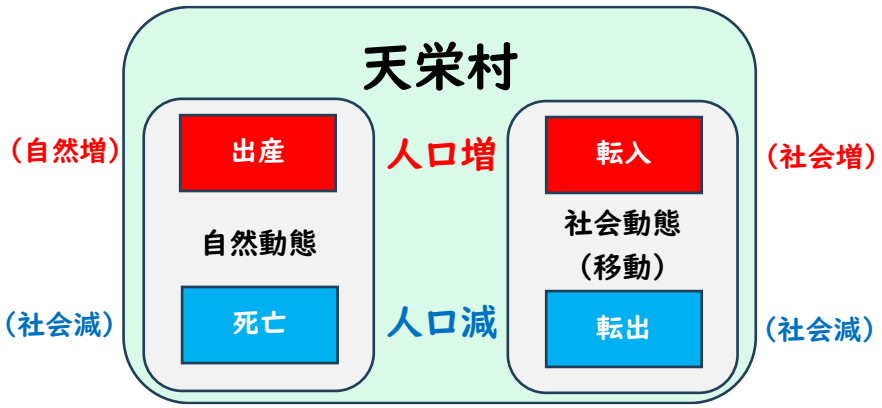
（１）趨勢人口と戦略人口

人口ビジョンにおいて設定する将来人口は、総合戦略による戦略的な人口政策の取組を前提とすることから、「戦略人口」として捉えることができます。この「戦略人口」と、戦略的な人口政策の取組を想定しない場合の将来人口（＝「趨勢（すうせい）人口」）との差が、総合戦略による戦略効果といえます。このことから、戦略人口の推計シミュレーションは、趨勢人口をベースに検討することになります。



（２）人口推計の基本的な考え方

人口の変動（変化）は、出生・死亡・移動の３つの要素の変化によるものです。移動（社会動態）は、転入及び転出による現象ですが、人口推計上はこれを区別することなく、転入と転出の差引きの結果としての（純）移動数として考えます。したがって、将来の人口推計を行うにあたっては、これらの人口変動の３要素の将来値をいかに設定するかがポイントとなります。



人口推計は上記の考え方を踏まえ、これに対応し得るコーホート要因法により行うものとします。具体の推計にあたっては、国が作成・配布した人口推計ツールを活用したシミュレーションを行っています。

（３）天栄村の趨勢人口の見通し

本ビジョンでは、社人研による推計人口を基に趨勢人口の推計を行いました。社人研推計人口は 2023 年に発表され、その後 2024 年６月に改訂版が発表されており、推計人口は子ども女性比や生残率、移動等各種パラメータを基に算出され、2050 年までの推計人口が示されています。その結果と福島県が公表している市区町村別の推計人口とも大きな乖離はみられないため、2024 年 10 月の最新人口データを反映した推計人口を本ビジョンの趨勢人口とします。

[社人研推計の将来設定]

要素	将来設定の基本的な考え方
出生	原則として、2020 年の全国の子ども女性比（20～44 歳女性人口に対する０～４歳人口の比）と各市町村の子ども女性比との比をとり、その比が 2025 年以降一定として市町村ごとに仮定。 （※通常、子ども女性比は 15～49 歳の女性人口に対する比が一般的なものの、15～19 歳と 45～49 歳の年齢別出生率は非常に低く、一部の市区町村において０～４歳の人口が過大になる可能性を避けるため 20～44 歳に設定。また、合計特殊出生率への換算については、国の換算率等を踏まえ調整。）
死亡	原則として、生残率は全国推計から得られる全国の男女・年齢別生残率を利用。55～59 歳→60～64 歳以下では、全国と都道府県の 2015 年→2020 年の生残率の比から算出される生残率を都道府県内市町村に対して一律に適用。60～64 歳→65～69 歳以上では、都道府県と市町村の 2000 年→2020 年の生残率の比から算出される生残率を市町村別に適用。
移動	原則として、2005 年～2010 年、2010～2015 年、2015～2020 年の３期間に観察された地域別の平均的な人口移動傾向が継続すると仮定。男女・年齢別は上記３期間の平均値を適用。

[趨勢人口（社人研推計の補正）の将来設定]

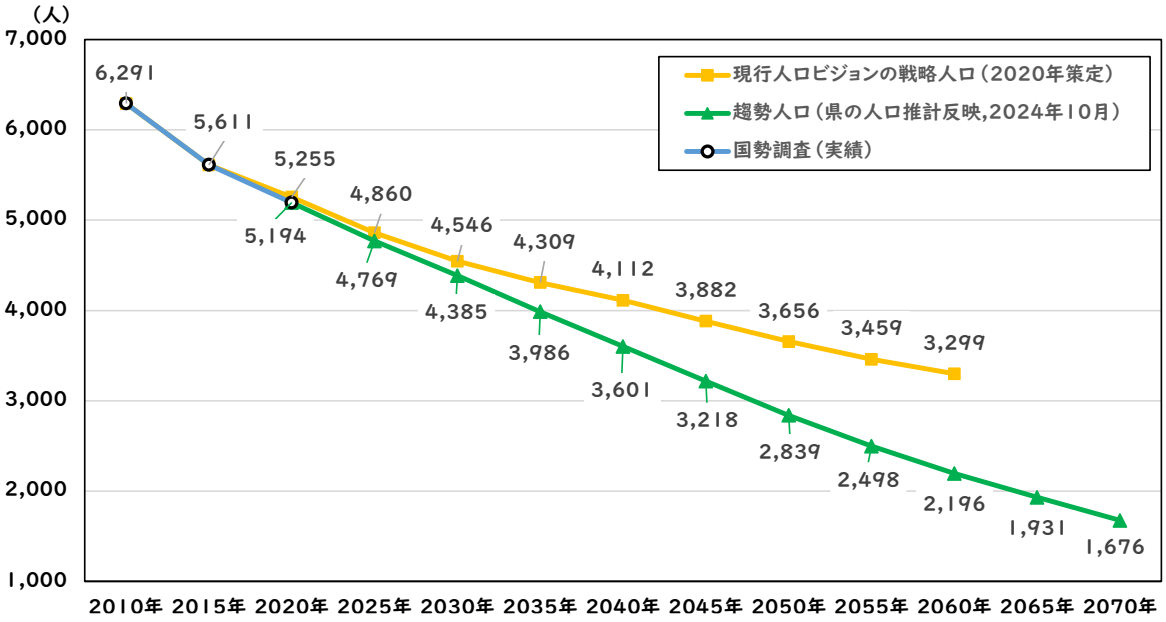
要素	将来設定の基本的な考え方
出生	社人研推計と同様。
死亡	社人研推計と同様。
移動	社人研推計の純移動率をベースに、最新人口データ（2024 年 10 月）人口に合うように補正（社人研推計よりも転出超過が緩やか）。

[趨勢人口の見通し]

（人）

趨勢人口（人）	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
社人研準拠（2023年）	5,194	4,760	4,375	3,976	3,593	3,211	2,830	2,488	2,187	1,922	1,668
社人研推計（2024.6改訂）	5,194	4,763	4,375	3,976	3,590	3,206	2,829	2,483	2,182	1,917	1,661
県の人口推計反映(2024年10月)	5,194	4,769	4,385	3,986	3,601	3,218	2,839	2,498	2,196	1,931	1,676

［現行戦略人口と趨勢人口］



（4）将来人口シミュレーション

①　シミュレーションの将来設定

趨勢人口を踏まえ、複数パターンの仮定に基づいた将来人口シミュレーションを行います。2025 年は策定時の翌年と直近のため、趨勢人口のままとします。

[Sim１：趨勢人口をベースに、出生率の上昇を見込んだ推計（国提示の基本推計)]

要素	将来設定の基本的な考え方
出生	合計特殊出生率が 2040 年までに人口置換水準（2.07）まで上昇、その後は 2.07 を維持すると仮定。
死亡	社人研推計と同様。
移動	趨勢人口と同様。

[Sim２：Sim１をベースに、移動がゼロを見込んだ推計（国提示の基本推計)]

要素	将来設定の基本的な考え方
出生	合計特殊出生率が 2040 年までに人口置換水準（2.07）まで上昇、その後は 2.07 を維持すると仮定。
死亡	社人研推計と同様。
移動	2025 年は趨勢人口と同様、2030 年以降に移動（純移動率）がゼロ（均衡）で推移すると仮定（趨勢人口で転入超過の年齢層は趨勢人口のまま)。

[Sim３：福島県人口ビジョン推計パターンに準拠（村の独自推計)]

要素	将来設定の基本的な考え方
出生	県のシミュレーションを踏まえ、合計特殊出生率が、2040 年までに福島県希望出生率「1.51」（ふくしま創生総合戦略（令和７～11 年度)）まで上昇し、その後 1.51 を維持すると仮定。
死亡	社人研推計と同様。
移動	2025 年は趨勢人口と同様、2030 年以降に移動（純移動率）がゼロ（均衡）で推移すると仮定（趨勢人口で転入超過の年齢層は趨勢人口のまま)。

[Sim４：出生率の上昇＋純定住率の上昇（村の独自推計)]

要素	将来設定の基本的な考え方
出生	県のシミュレーションを踏まえ、合計特殊出生率が、2040 年までに福島県希望出生率「1.51」（ふくしま創生総合戦略（令和７～11 年度)）まで上昇し、その後 1.51 を維持すると仮定。
死亡	社人研推計と同様。
移動	2025 年は趨勢人口と同様、2040 年以降に移動（純移動率）がゼロ（均衡）で推移すると仮定（趨勢人口で転入超過の年齢層は趨勢人口のまま)。 ※2030～2035 年は 2025 年と 2040 年の差を均等配分で調整。（総合戦略の施策の効果は、一定の時間をもって徐々に表れるものと想定。）

＜純移動率と純定住率について＞

○純移動率とは、各コーホート人口（性別・年齢区分別人口）に対する当該コーホートの移動数の比率であり、転入超過の場合はプラス、転出超過の場合はマイナスとなります。

○推計上、新たに導入する純定住率とは、この純移動率に 1.0 を加えた数値であり、転入超過の場合は 1.0 を超え、転出超過の場合は 1.0 未満（ゼロ以上）、また、転入・転出が均衡して移動ゼロの場合は 1.0 となります。

○趨勢人口（社人研準拠）における純移動率から算出される本村の純定住率は、2025 年仮定値で男女ともに 0.7 程度となっています。例えば、下表の 2025 年の男性の数値をみると、純定住率は「0.71」となります。これは、仮に 2025 年の人口が 100 人だったと仮定した場合、死亡による人口変動要因を排除しても、転入・転出による移動の結果だけで、71 人程度まで減少するような社会動態構造であることを示しています。

○定住促進とは、この純定住率の上昇を目指す取組と解釈することができます。

●趨勢人口における純定住率・男性（例）

純定住率･男性	→2025	→2030	→2035	→2040	→2045	→2050	→2055	→2060	→2065	→2070
0～4歳→5～9歳	0.991	0.993	0.993	0.993	0.992	0.991	0.991	0.991	0.991	0.991
5～9歳→10～14歳	0.998	1.000	1.001	1.000	1.000	0.999	0.999	0.999	0.999	0.999
10～14歳→15～19歳	0.856	0.855	0.855	0.855	0.854	0.853	0.853	0.853	0.853	0.853
15～19歳→20～24歳	0.850	0.854	0.850	0.852	0.850	0.847	0.847	0.847	0.847	0.847
20～24歳→25～29歳	1.042	1.038	1.030	1.030	1.032	1.032	1.032	1.032	1.032	1.032
25～29歳→30～34歳	0.910	0.907	0.906	0.901	0.901	0.902	0.902	0.902	0.902	0.902
30～34歳→35～39歳	0.961	0.960	0.959	0.957	0.954	0.954	0.954	0.954	0.954	0.954
35～39歳→40～44歳	0.950	0.955	0.959	0.958	0.957	0.955	0.955	0.955	0.955	0.955
40～44歳→45～49歳	0.980	0.970	0.976	0.983	0.982	0.982	0.982	0.982	0.982	0.982
45～49歳→50～54歳	1.013	1.011	1.003	1.007	1.026	1.027	1.027	1.027	1.027	1.027
50～54歳→55～59歳	1.029	1.027	1.028	1.029	1.030	1.031	1.031	1.031	1.031	1.031
55～59歳→60～64歳	0.999	0.997	0.996	0.997	0.998	0.998	0.998	0.998	0.998	0.998
60～64歳→65～69歳	1.003	1.002	1.002	1.002	1.002	1.003	1.003	1.003	1.003	1.003
65～69歳→70～74歳	1.010	1.010	1.017	1.017	1.016	1.017	1.017	1.017	1.017	1.017
70～74歳→75～79歳	0.974	0.969	0.970	0.980	0.984	0.983	0.983	0.983	0.983	0.983
75～79歳→80～84歳	1.032	1.027	1.016	1.020	1.037	1.041	1.041	1.041	1.041	1.041
80～84歳→85～89歳	1.004	1.000	1.009	0.996	1.000	1.007	1.007	1.007	1.007	1.007
85～89歳→90～94歳	1.064	1.063	1.055	1.086	1.052	1.069	1.069	1.069	1.069	1.069
90～94歳→95歳以上	1.027	1.032	1.028	1.022	1.036	1.022	1.022	1.022	1.022	1.022
	0.709	0.694	0.683	0.704	0.718	0.724	0.724	0.724	0.724	0.724

○各５歳階級のコーホートが５年間で次のコーホートに移行する際の純定住率。

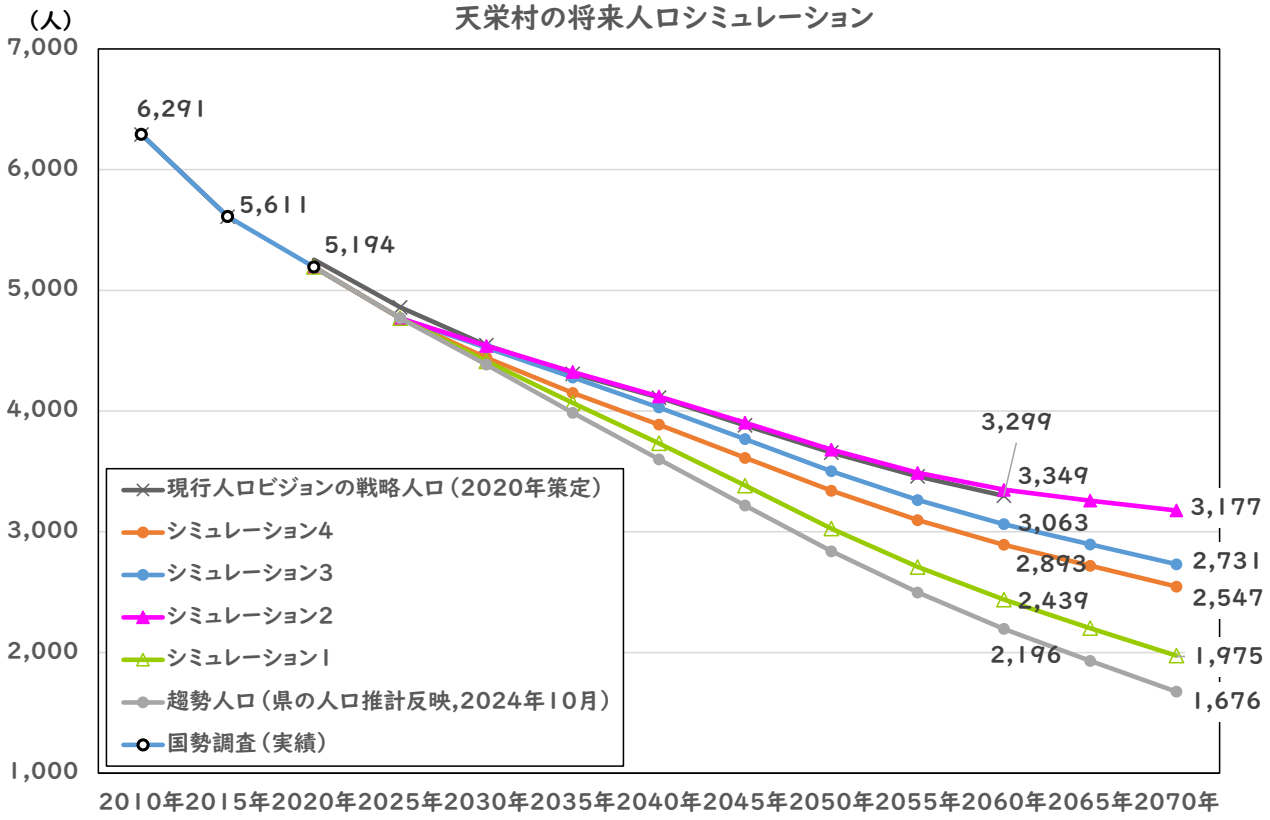
○１超なら転入超過、１未満なら転出超過、１の場合は移動が均衡している状態。

○上表ではピンクのコーホートが転入超過、それ以外が転出超過です。最下部の数値は各年齢別の純定住率をすべて掛け合わせた値（生涯純定住率）で、１超なら移動により人口増加、１未満なら移動により人口減少することになります。

② シミュレーション結果

＜総人口＞

○2070 年の総人口は趨勢人口が 1,676 人であるのに対し、シミュレーション（Sim）１は 1,975 人、シミュレーション（Sim）２は 3,177 人、シミュレーション（Sim）３は 2,731 人、シミュレーション（Sim）４は 2,547 人となっています。



（人）

総人口（人）	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口(2024年10月)	5,194	4,769	4,385	3,986	3,601	3,218	2,839	2,498	2,196	1,931	1,676
シミュレーション1	5,194	4,769	4,413	4,068	3,734	3,383	3,027	2,709	2,439	2,202	1,975
シミュレーション2	5,194	4,769	4,541	4,325	4,121	3,904	3,681	3,489	3,349	3,258	3,177
シミュレーション3	5,194	4,769	4,526	4,279	4,030	3,768	3,502	3,263	3,063	2,896	2,731
シミュレーション4	5,194	4,769	4,442	4,151	3,888	3,613	3,341	3,097	2,893	2,719	2,547
現行人口ビジョンの戦略人口	5,194	4,860	4,546	4,309	4,112	3,882	3,656	3,459	3,299	－	－

＜年齢構造別総人口＞

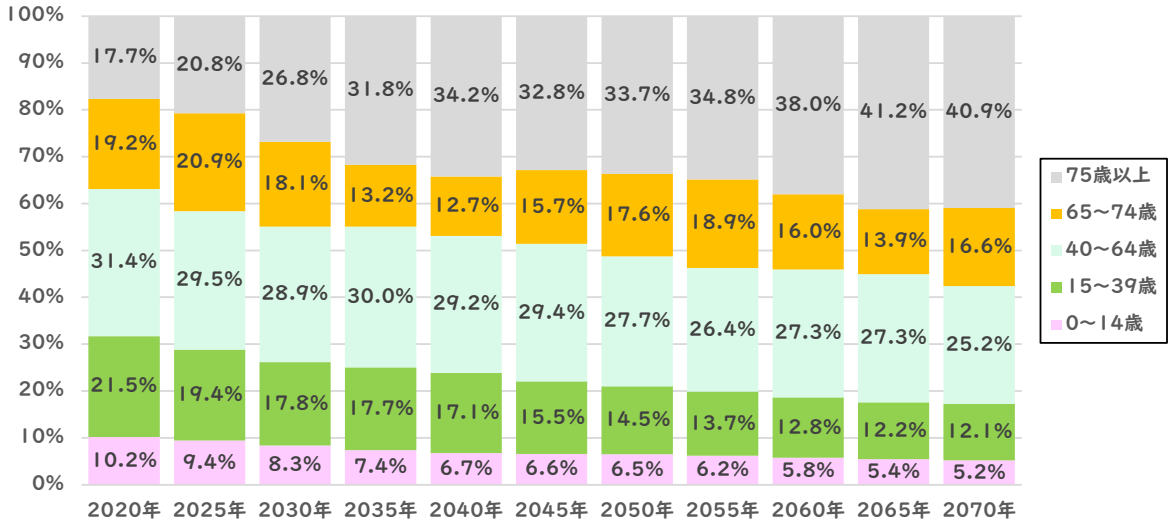
（人）

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	5,194	4,769	4,385	3,986	3,601	3,218	2,839	2,498	2,196	1,931	1,676
0～14歳	530	449	366	295	243	211	184	155	127	105	87
15～39歳	1,117	926	781	704	617	498	413	341	282	235	202
40～64歳	1,631	1,408	1,269	1,196	1,052	946	786	660	600	528	422
65～74歳	997	996	792	525	456	506	500	472	352	268	279
75歳以上	919	990	1,177	1,266	1,233	1,057	956	870	835	795	686
Sim1	5,194	4,769	4,413	4,068	3,734	3,383	3,027	2,709	2,439	2,202	1,975
0～14歳	530	444	387	363	366	343	304	266	245	234	223
15～39歳	1,117	928	783	706	614	519	470	431	395	370	342
40～64歳	1,631	1,408	1,271	1,198	1,055	949	788	662	604	529	439
65～74歳	997	998	793	527	457	507	502	473	353	269	282
75歳以上	919	991	1,179	1,274	1,242	1,065	963	877	842	800	689
Sim2	5,194	4,769	4,541	4,325	4,121	3,904	3,681	3,489	3,349	3,258	3,177
0～14歳	530	444	396	398	451	482	479	455	450	472	504
15～39歳	1,117	928	866	862	812	757	743	734	746	780	794
40～64歳	1,631	1,408	1,290	1,240	1,127	1,058	946	888	883	831	778
65～74歳	997	998	802	536	468	520	524	509	390	324	354
75歳以上	919	991	1,187	1,289	1,263	1,087	989	903	880	851	747
Sim3	5,194	4,769	4,526	4,279	4,030	3,768	3,502	3,263	3,063	2,896	2,731
0～14歳	530	444	381	352	360	362	348	322	302	292	288
15～39歳	1,117	928	866	862	812	741	695	641	608	598	581
40～64歳	1,631	1,408	1,290	1,240	1,127	1,058	946	888	883	831	761
65～74歳	997	998	802	536	468	520	524	509	390	324	354
75歳以上	919	991	1,187	1,289	1,263	1,087	989	903	880	851	747
Sim4	5,194	4,769	4,442	4,151	3,888	3,613	3,341	3,097	2,893	2,719	2,547
0～14歳	530	444	375	337	329	323	312	296	281	270	262
15～39歳	1,117	928	811	784	745	675	639	599	564	546	528
40～64歳	1,631	1,408	1,279	1,218	1,094	1,018	891	810	805	765	694
65～74歳	997	998	795	531	466	519	518	495	373	303	336
75歳以上	919	991	1,182	1,281	1,254	1,078	981	897	870	835	727

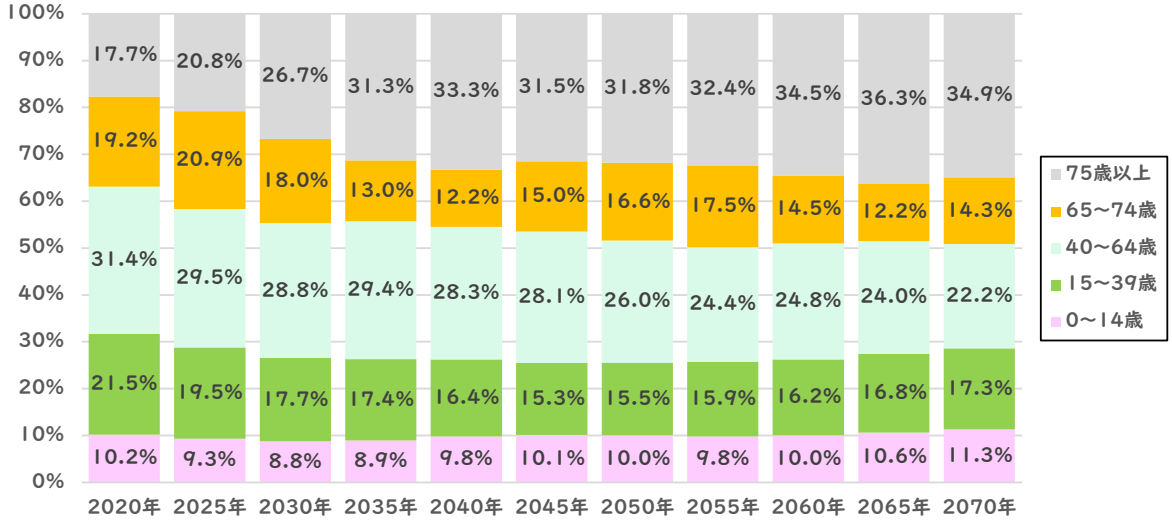
（人）

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	5,194	4,769	4,385	3,986	3,601	3,218	2,839	2,498	2,196	1,931	1,676
0～14歳	10.2%	9.4%	8.3%	7.4%	6.7%	6.6%	6.5%	6.2%	5.8%	5.4%	5.2%
15～39歳	21.5%	19.4%	17.8%	17.7%	17.1%	15.5%	14.5%	13.7%	12.8%	12.2%	12.1%
40～64歳	31.4%	29.5%	28.9%	30.0%	29.2%	29.4%	27.7%	26.4%	27.3%	27.3%	25.2%
65～74歳	19.2%	20.9%	18.1%	13.2%	12.7%	15.7%	17.6%	18.9%	16.0%	13.9%	16.6%
75歳以上	17.7%	20.8%	26.8%	31.8%	34.2%	32.8%	33.7%	34.8%	38.0%	41.2%	40.9%
Sim1	5,194	4,769	4,413	4,068	3,734	3,383	3,027	2,709	2,439	2,202	1,975
0～14歳	10.2%	9.3%	8.8%	8.9%	9.8%	10.1%	10.0%	9.8%	10.0%	10.6%	11.3%
15～39歳	21.5%	19.5%	17.7%	17.4%	16.4%	15.3%	15.5%	15.9%	16.2%	16.8%	17.3%
40～64歳	31.4%	29.5%	28.8%	29.4%	28.3%	28.1%	26.0%	24.4%	24.8%	24.0%	22.2%
65～74歳	19.2%	20.9%	18.0%	13.0%	12.2%	15.0%	16.6%	17.5%	14.5%	12.2%	14.3%
75歳以上	17.7%	20.8%	26.7%	31.3%	33.3%	31.5%	31.8%	32.4%	34.5%	36.3%	34.9%
Sim2	5,194	4,769	4,541	4,325	4,121	3,904	3,681	3,489	3,349	3,258	3,177
0～14歳	10.2%	9.3%	8.7%	9.2%	10.9%	12.3%	13.0%	13.0%	13.4%	14.5%	15.9%
15～39歳	21.5%	19.5%	19.1%	19.9%	19.7%	19.4%	20.2%	21.0%	22.3%	23.9%	25.0%
40～64歳	31.4%	29.5%	28.4%	28.7%	27.3%	27.1%	25.7%	25.5%	26.4%	25.5%	24.5%
65～74歳	19.2%	20.9%	17.7%	12.4%	11.4%	13.3%	14.2%	14.6%	11.6%	9.9%	11.1%
75歳以上	17.7%	20.8%	26.1%	29.8%	30.6%	27.8%	26.9%	25.9%	26.3%	26.1%	23.5%
Sim3	5,194	4,769	4,526	4,279	4,030	3,768	3,502	3,263	3,063	2,896	2,731
0～14歳	10.2%	9.3%	8.4%	8.2%	8.9%	9.6%	9.9%	9.9%	9.9%	10.1%	10.5%
15～39歳	21.5%	19.5%	19.1%	20.1%	20.1%	19.7%	19.8%	19.6%	19.8%	20.6%	21.3%
40～64歳	31.4%	29.5%	28.5%	29.0%	28.0%	28.1%	27.0%	27.2%	28.8%	28.7%	27.9%
65～74歳	19.2%	20.9%	17.7%	12.5%	11.6%	13.8%	15.0%	15.6%	12.7%	11.2%	13.0%
75歳以上	17.7%	20.8%	26.2%	30.1%	31.3%	28.8%	28.2%	27.7%	28.7%	29.4%	27.4%
Sim4	5,194	4,769	4,442	4,151	3,888	3,613	3,341	3,097	2,893	2,719	2,547
0～14歳	10.2%	9.3%	8.4%	8.1%	8.5%	8.9%	9.3%	9.6%	9.7%	9.9%	10.3%
15～39歳	21.5%	19.5%	18.3%	18.9%	19.2%	18.7%	19.1%	19.3%	19.5%	20.1%	20.7%
40～64歳	31.4%	29.5%	28.8%	29.3%	28.1%	28.2%	26.7%	26.2%	27.8%	28.1%	27.2%
65～74歳	19.2%	20.9%	17.9%	12.8%	12.0%	14.4%	15.5%	16.0%	12.9%	11.1%	13.2%
75歳以上	17.7%	20.8%	26.6%	30.9%	32.3%	29.8%	29.4%	29.0%	30.1%	30.7%	28.5%

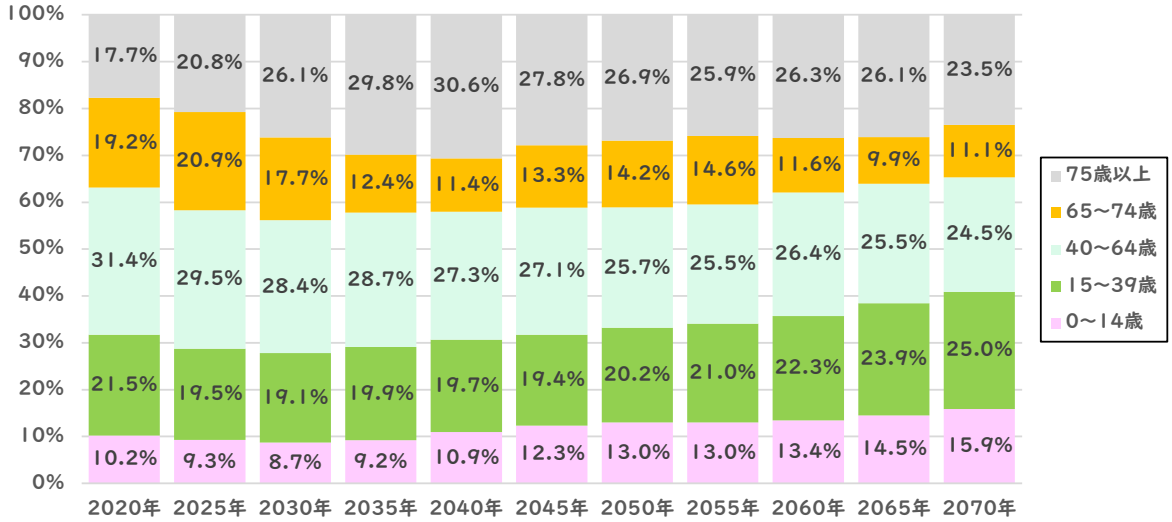
趨勢人口（2024年10月）：年齢構成比



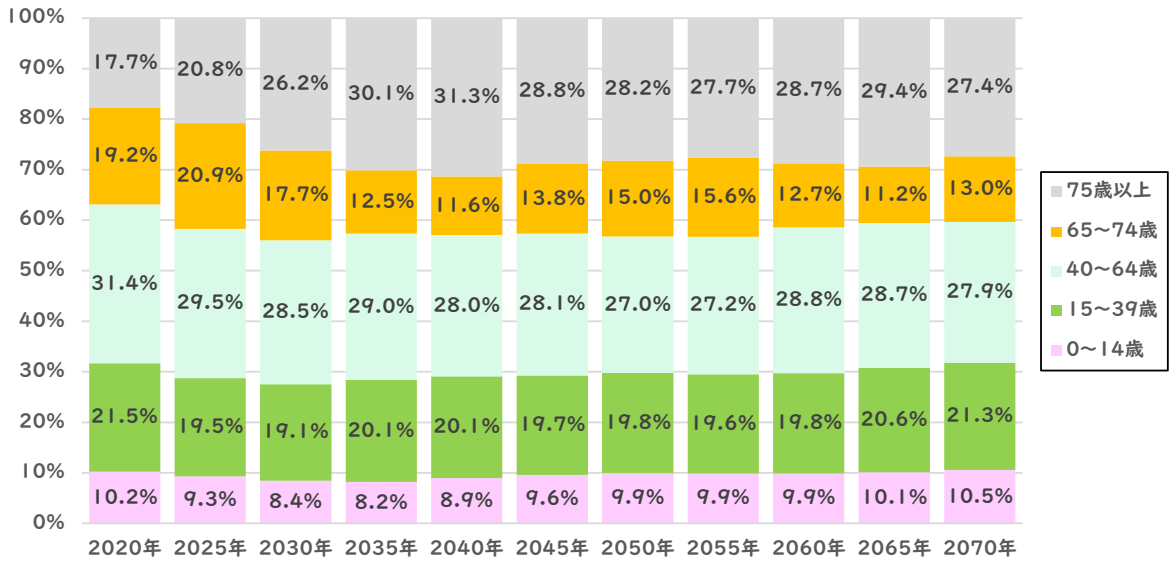
シミュレーション1：年齢構成比



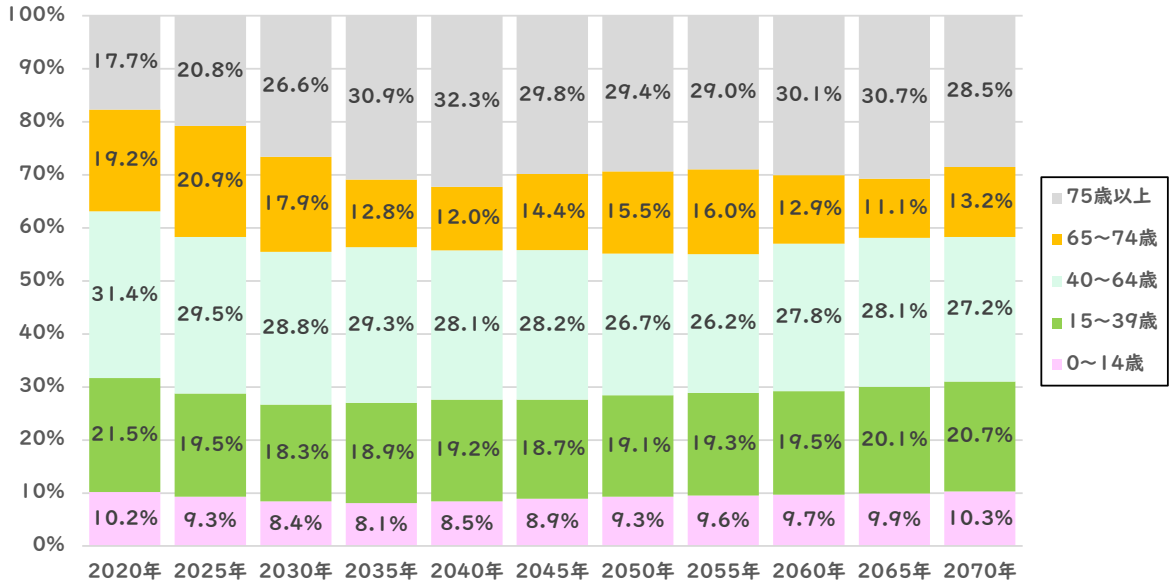
シミュレーション2：年齢構成比



シミュレーション3：年齢構成比



シミュレーション4：年齢構成比



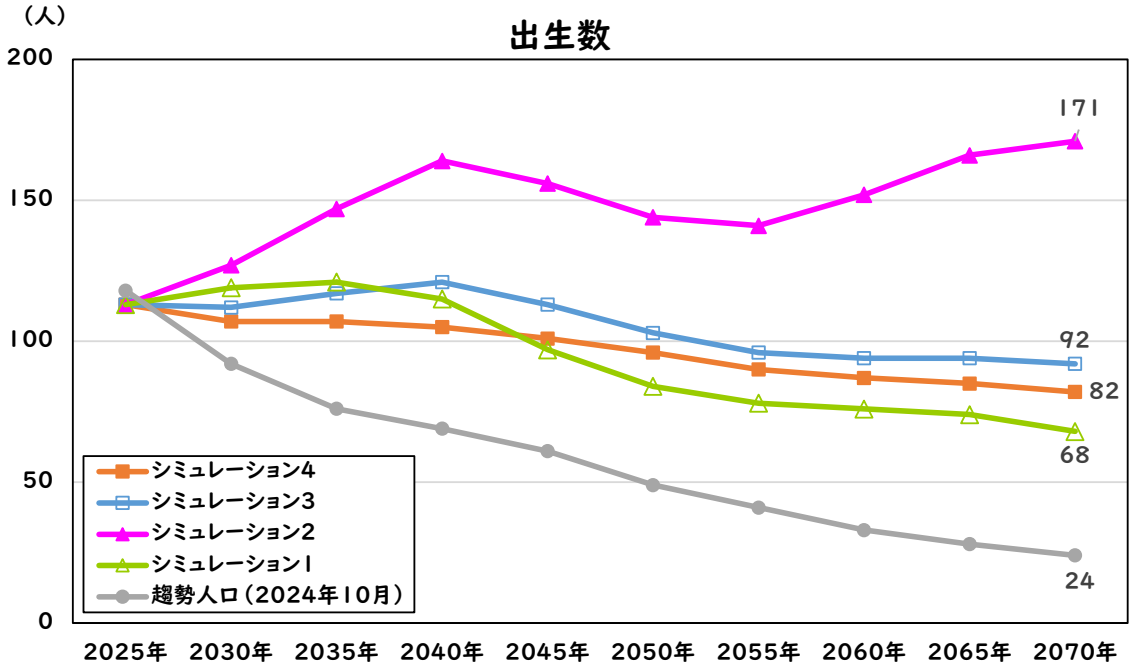
＜出生数＞

○出生数については、下表のような合計特殊出生率の仮定に基づいています。

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口（2024年10月）	1.36	1.41	1.24	1.15	1.23	1.29	1.22	1.22	1.25	1.23	1.21
シミュレーション1	1.36	1.36	1.60	1.83	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07
シミュレーション2	1.36	1.36	1.60	1.83	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07
シミュレーション3	1.36	1.36	1.41	1.46	1.51	1.51	1.51	1.51	1.51	1.51	1.51
シミュレーション4	1.36	1.36	1.41	1.46	1.51	1.51	1.51	1.51	1.51	1.51	1.51

○出生数は合計特殊出生率と 15～49 歳の女性人口との関係で変動します。

○合計特殊出生率が最も高い設定となる“シミュレーション３”、“シミュレーション４”においても、“シミュレーション２”に比べて出生数が少なくなるのはそのためです。



（人）

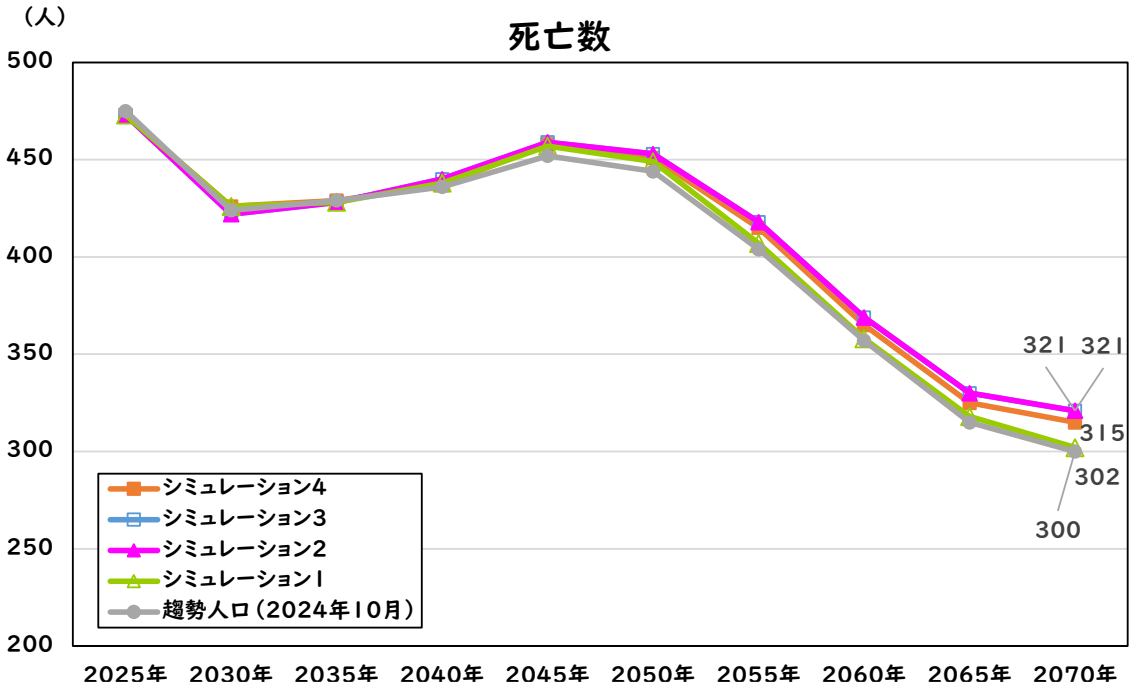
	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口（2024年10月）	118	92	76	69	61	49	41	33	28	24
シミュレーション1	113	119	121	115	97	84	78	76	74	68
シミュレーション2	113	127	147	164	156	144	141	152	166	171
シミュレーション3	113	112	117	121	113	103	96	94	94	92
シミュレーション4	113	107	107	105	101	96	90	87	85	82

※数値は5年間の累計

＜死亡数＞

○死亡数については、趨勢人口や各シミュレーションにおいて、いずれも社人研推計の設定を採用しています。これは、自治体単位の取組成果として、死亡数を推計する際に用いる生残率の変動を期待することは難しいためです。

○したがって、趨勢人口や各シミュレーションにおける死亡数の差異は、出生数や移動数の違いに基づくものです。



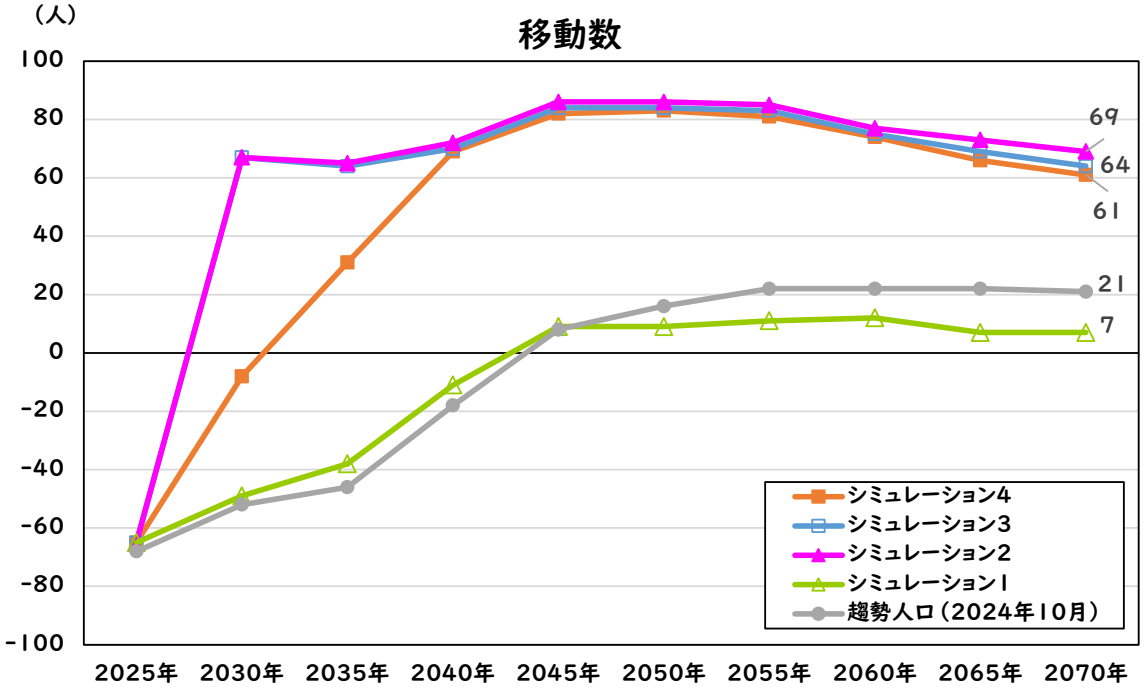
（人）

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口（2024年10月）	475	424	429	436	452	444	404	357	315	300
シミュレーション1	473	426	428	438	457	449	407	358	318	302
シミュレーション2	473	422	428	440	459	453	418	369	330	321
シミュレーション3	473	422	428	440	459	453	418	369	330	321
シミュレーション4	473	426	429	437	458	451	415	365	325	315

※数値は5年間の累計

＜移動数＞

〇いずれの推計においても、純定住率の上昇に伴い、転出超過から転入超過で推移します。
〇趨勢人口においても 2045 年に転入超過に転じる予測となっています。
〇2030～2050 年に移動が均衡になる仮定値を設けているシミュレーション２～４は、趨勢人口において転出超過となっている 39 歳以下の若年層の転出が抑えられた場合の結果と言えます。



（人）

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口（2024年10月）	-68	-52	-46	-18	8	16	22	22	22	21
シミュレーション1	-65	-49	-38	-11	9	9	11	12	7	7
シミュレーション2	-65	67	65	72	86	86	85	77	73	69
シミュレーション3	-65	67	64	70	84	84	83	75	69	64
シミュレーション4	-65	-8	31	69	82	83	81	74	66	61

※数値は5年間の累計

３　天栄村における人口動向・構造の特性と課題

［特性］

○本村における近年の総人口は、1995 年の 7,153 人以降は減少傾向で推移しており、2020 年には 5,194 人となっています。

○人口構成比では、年少人口（０～14 歳）比率は 1990 年の 21.3%から 2020 年の 10.2%に減少したのに対し、老年人口（65 歳以上）は同 17.4%から同 36.9%に増加しており、本村においても少子高齢化が進行しています。

○出生数は概ね 20 人台で推移してきたものの、2022 年は 19 人と 20 人以下となっています。

○死亡数は年間 100 人程度で推移してきたものの、2022 年は 119 人と増加傾向で推移しています。出生数と合わせた自然動態としては年間－70 人程度で推移していたものの、2022 年は－100 人と増加傾向です。

○転入者数は年間 150 人程度、転出者数は 170～180 人程度で、社会動態としては一貫してマイナスで推移していますが、令和５年では社会増減が-８人となっており、回復傾向です。

○転入・転出といった移動が特に多い年代は、男女ともに 20・30 代となっており、進学・就職や結婚等のライフイベントに伴う移動と考えられます。

○2023 年の転入元は須賀川市が最も多く 17.1%、転出先は郡山市が最も多く 19.5%となっています。

○2020 年の通勤・通学状況は、15 歳以上の就業者・通学者 3,276 人のうち、村内への通勤・通学者が 1,607 人で 49.0%となります。

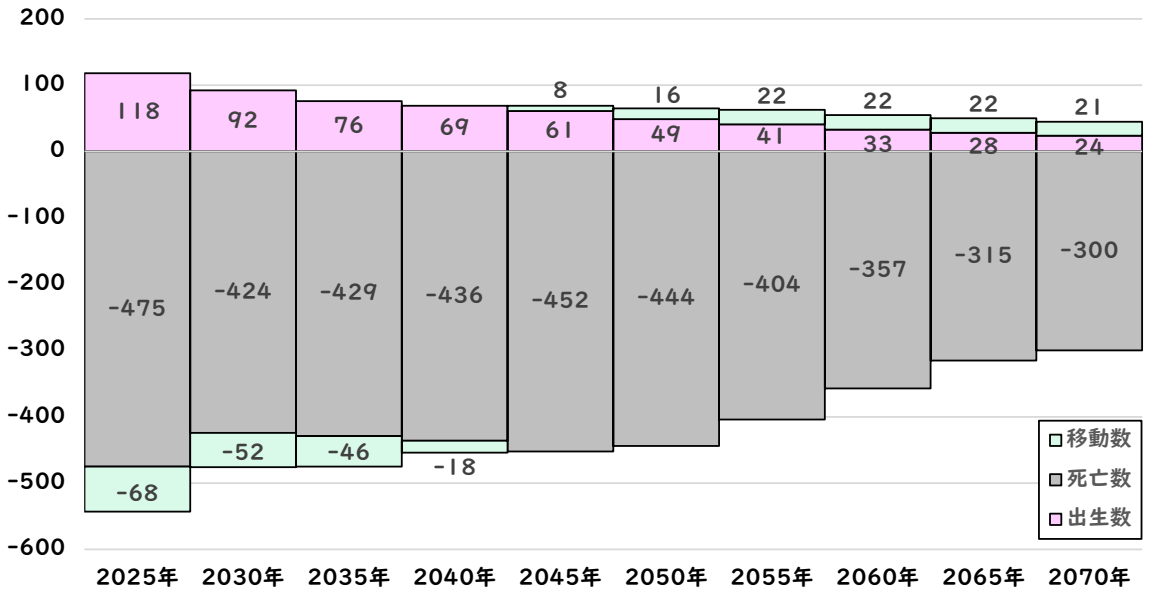
○村外への通勤・通学者 1,669 人のうち、通勤・通学先として最も多いのは須賀川市で 607 人と全体の 36.4%を占めています。

○一方、本村への通勤・通学者 1,233 人のうち、須賀川市からの通勤・通学者が 510 人と最も多く、41.4%を占めています。

○また、2020 年の村内従業者の産業別従業者数は、製造業が最も多く 677 人となっています。

○今後の趨勢人口は 2020 年の 5,194 人から 2070 年に 1,676 人程度へ減少することが見込まれ、その減少の多くは死亡によるものです。
○下図に示すとおり、2020 年から 2070 年までの 50 年間で計 4,000 人程度の死亡が見込まれています。

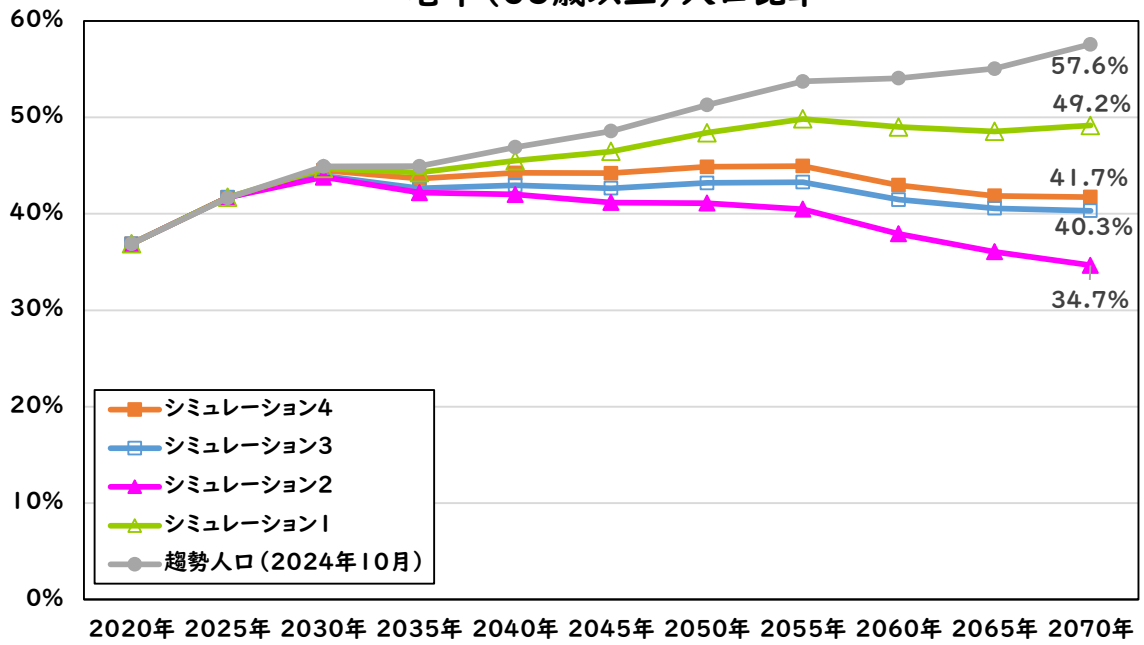
趨勢人口（2024年10月）:人口変化ストック数



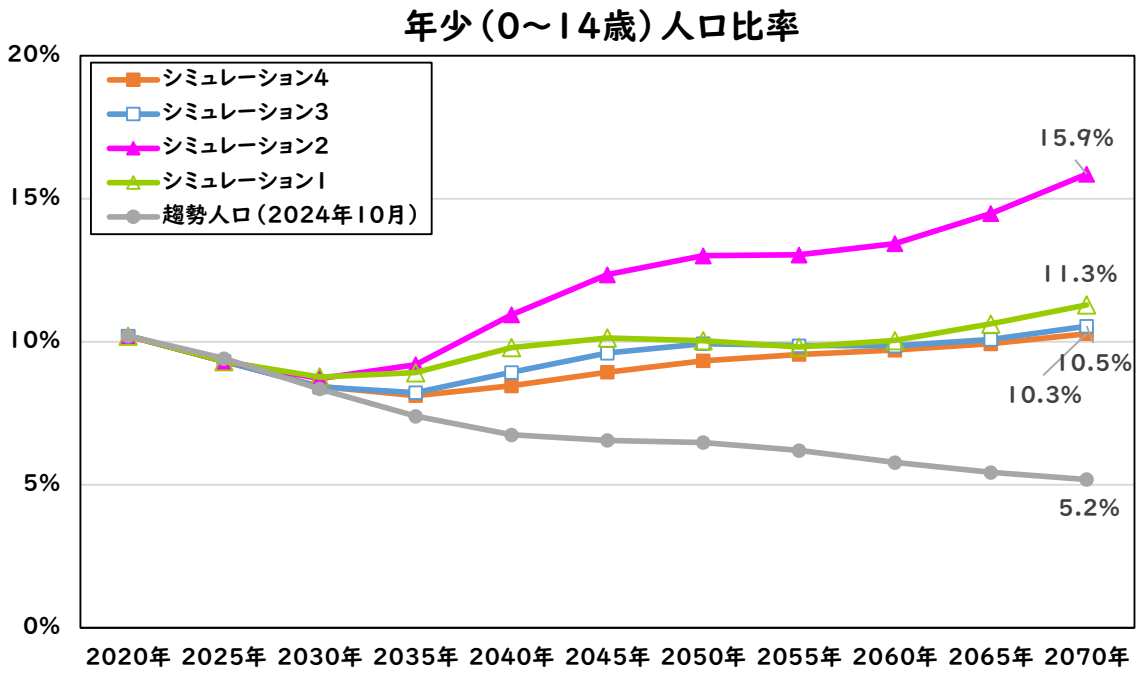
※数値は５年間の累積

○高齢化した人口構造を背景に、死亡数を大きく減少させることは困難と考えられ、今後の人口政策は、出生数の増加及び転入促進・転出抑制が重要になってきます。
○趨勢人口としての 65 歳以上の高齢者（老年）人口は 2025 年に 2,000 人程度でピークを迎えることが予測されるものの、総人口の減少に伴い、高齢化率（老年人口比率）は今後も上昇していくことが見込まれています。

老年（65歳以上）人口比率



○出生数は合計特殊出生率を上昇させることは必要不可欠なものの、若年女性人口が転出により減少しているため、影響は限定的となります。
○転出抑制のためには、本村内で就業の場の提供、ワークライフバランスの進展、経済支援等を含めた子育て環境の向上を図ります。あわせて、若い世代の未婚化・非婚化を抑制するための婚活支援の取組が極めて重要になっていると考えられます。
○前述の高齢化率の上昇を抑制していくためには、出生数の増加や若い世代の人口増加を図るための取組が重要になります。
○2070 年の年少人口比率は趨勢人口では 2070 年に 5.2%に減少する一方、シミュレーション１～４では 10%以上に上昇することになります。



○都市における人口規模の大幅な縮小は、地域における消費活動を減退させるだけでなく、労働人口減少につながり、地域経済の規模縮小という結果を招きます。日常生活における様々なサービス・利便性が低下していくとともに、都市機能や生活機能の低下により、さらなる人口転出を促進させてしまう悪循環に陥ります。
○また、人口問題は規模だけの問題だけではなく、人口の年齢構造の問題でもあり、このまま少子高齢化の傾向が続くことは、高齢介護等をはじめとするサービス需要の問題だけではなく、長期的な人口規模を維持するという観点からも、少子高齢化を抑制し、人口構造を健全化する必要があります。

Ⅲ　人口の将来展望

Ⅰ　将来展望に必要な調査・分析

（１）アンケートの実施概要

○天栄村における人口の将来展望の基礎資料とするため、住民へのアンケート調査を実施いたしました。調査の対象者や回収数等については、下記のとおりです。

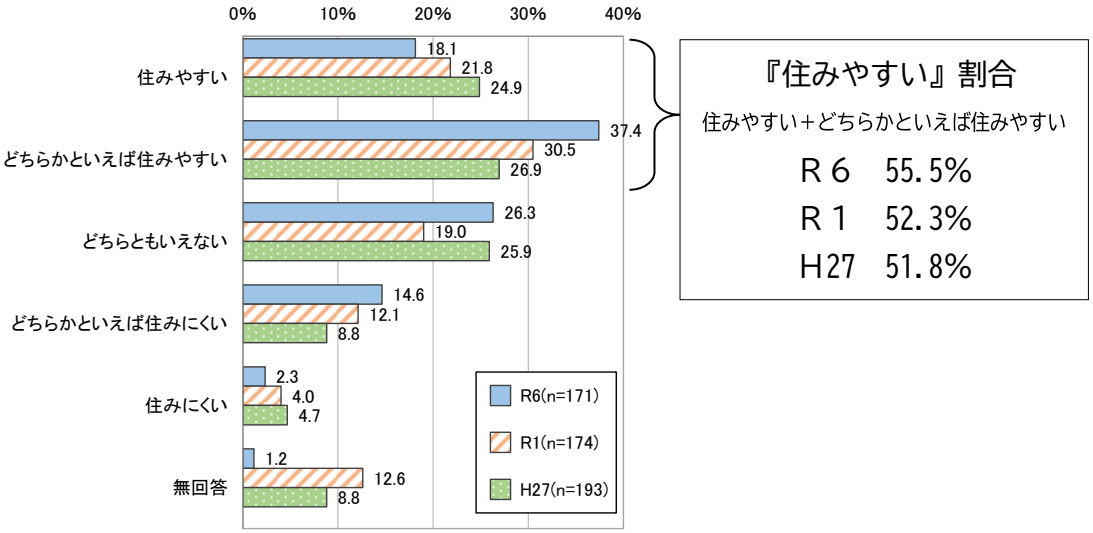
項目	内容
調査名	地方創生に関する村民アンケート
調査対象	村内在住の 15 歳以上 65 歳未満の方を無作為抽出
調査実施時期	令和６年 10 月
回収率	34.2%（500 票配布／有効回収数 171 票）

（２）アンケートの結果概要

住みやすさや定住意向について

①　住みやすさについて

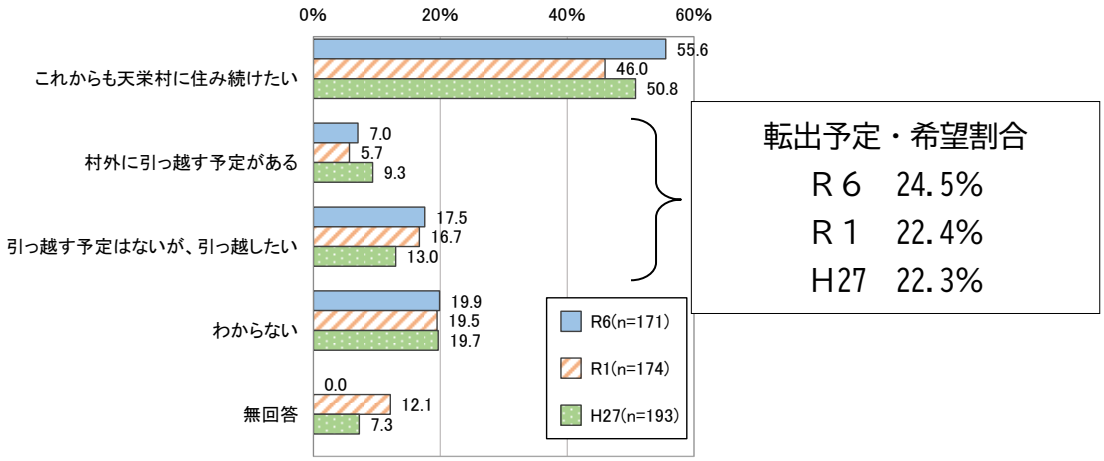
「住みやすい」（18.1%）と「どちらかといえば住みやすい」（37.4%）を合わせた『住みやすい』が 55.5%と過半数を占めています。また、平成 27 年調査・令和元年調査と比べ、『住みやすい』割合が増加傾向となっています。



② 定住意向について

「これからも天栄村に住み続けたい」が 55.6%と過半数となっています。

しかし、「村外に引っ越す予定がある」(7.0%)、「引っ越す予定はないが、引っ越したい」(17.5%) と転出予定・希望の方が 24.5%となっており、平成 27 年調査・令和元年調査と比べて増加傾向となっています。



③ 引っ越す理由

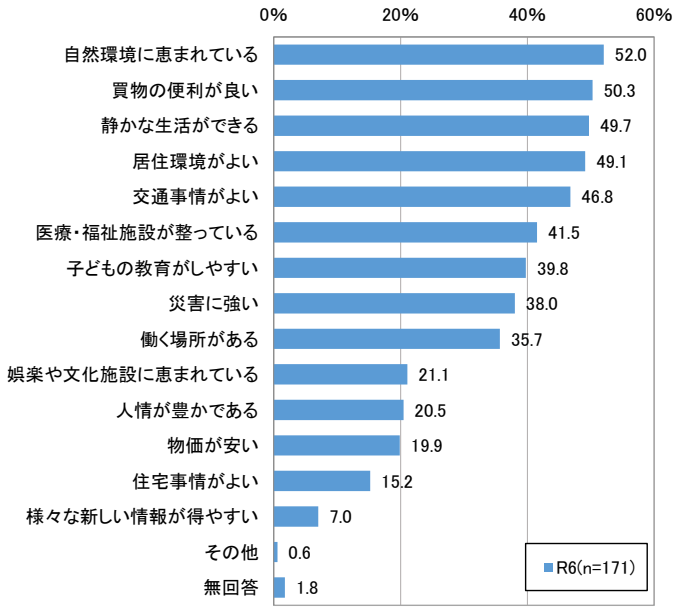
「生活をするのに不便（買物・交通等）だから」が最も多くなっており、平成 27 年調査・令和元年調査と同様の結果となっています。

次いで「仕事の関係から」「働く場所がないから」が多くなっています。

			R１結果	H27 結果
１位	生活をするのに不便（買物・交通等）だから	61.9%	87.2%（１位）	67.4%（１位）
２位	仕事の関係から	26.2%	20.5%（３位）	23.3%（３位）
３位	働く場所がないから	16.7%	43.6%（２位）	32.6%（２位）

④ 住みよさとは

「自然環境に恵まれている」が 52.0%と最も多く、次いで「買物の便利が良い」が 50.3%、「静かな生活ができる」が 49.7%となっています。

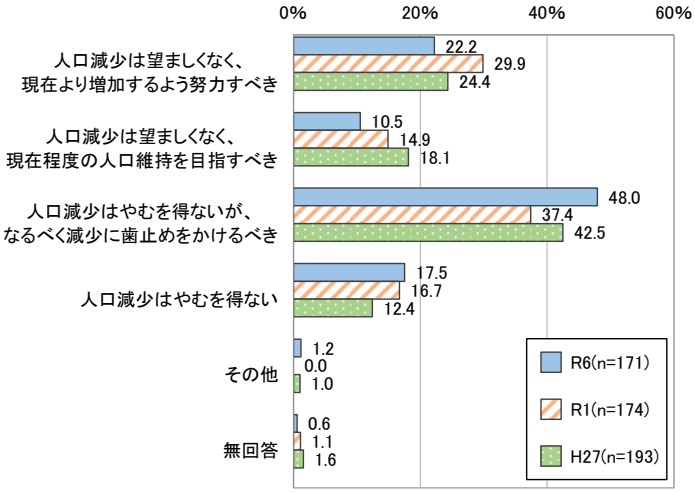


人口減少について

① 人口減少への考え方

「人口減少はやむを得ないが、なるべく減少に歯止めをかけるべき」が48.0%で最も多くなっています。

平成 27 年調査・令和元年調査と比べて「人口減少はやむを得ない」と考える方の割合（「人口減少はやむを得ないが、なるべく減少に歯止めをかけるべき」＋「人口減少はやむを得ない」）が増加傾向となっています。



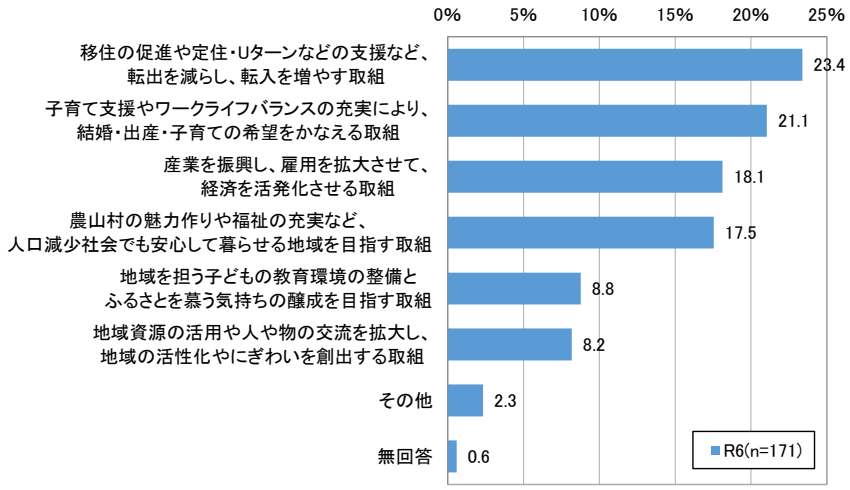
② 不安に思う人口減少による影響

「地域を支える担い手の不足や地域活力の低下」が最も多く、次いで、「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障に係る個人の負担増」が多くなっています。順位は前後しますが、平成 27 年調査・令和元年調査においても、１位と２位の項目は変わっていません。

			R１結果	H27 結果
１位	地域を支える担い手の不足や地域活力の低下	71.9%	67.2%（２位）	68.9%（２位）
２位	年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障に係る個人の負担増	70.8%	70.7%（１位）	71.0%（１位）
３位	過疎化の進行による土地の荒廃	64.3%	58.0%（３位）	51.3%（４位）

③ 人口減少に対して村が取り組むべきこと

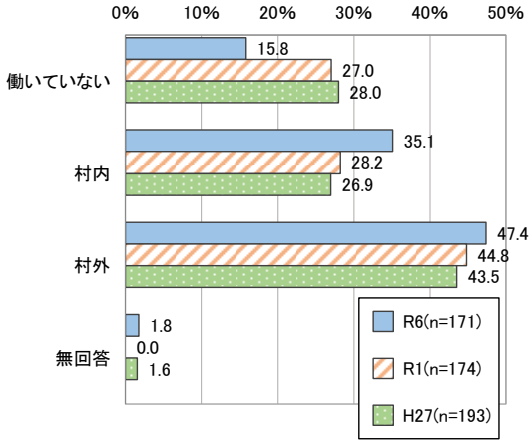
「移住の促進や定住･U ターンなどの支援など、転出を減らし、転入を増やす取組」が 23.4%と最も多く、次いで「子育て支援やワークライフバランスの充実により、結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組」が 21.1%となっています。



就労・働くことや産業・経済について

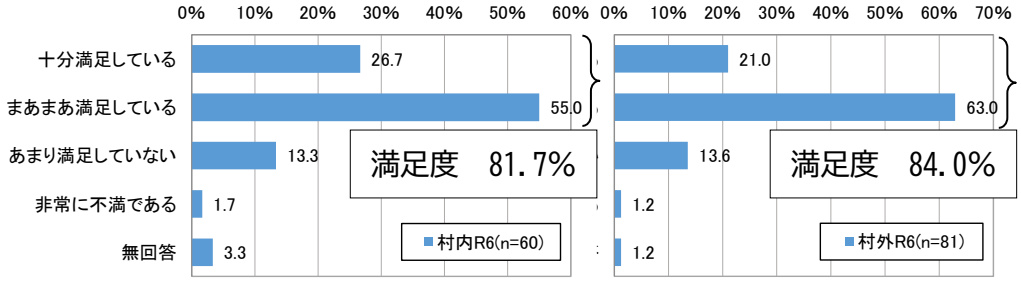
① 就労状況

「村外」が 47.4%、「村内」が 35.1%、「働いていない」が 15.8%となっています。



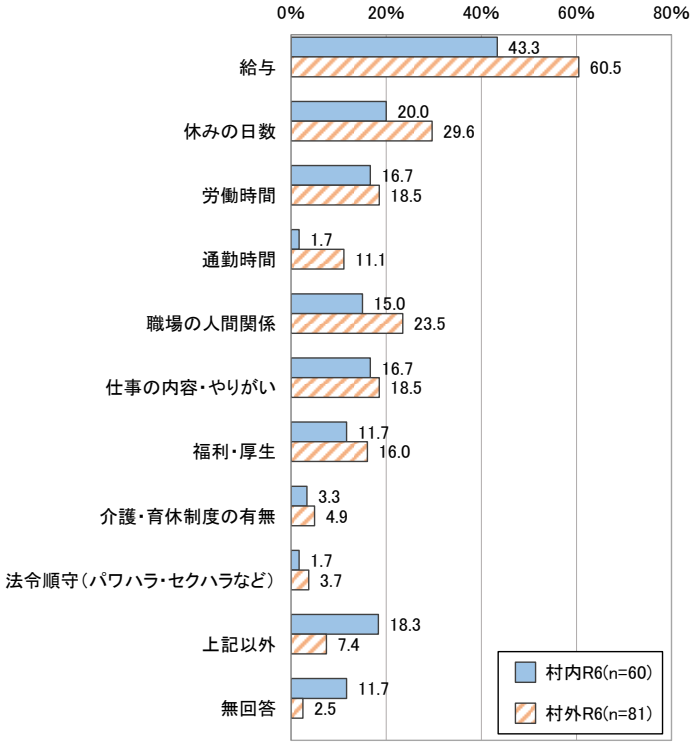
② 仕事への満足度

「十分満足している」と「まあまあ満足している」を合わせた『満足している（満足度）』は、村内で働く方で 81.7%、村外で働く方で 84.0%と、若干ですが、村外の方が高くなっています。



③ 職場環境で改善してほしいこと

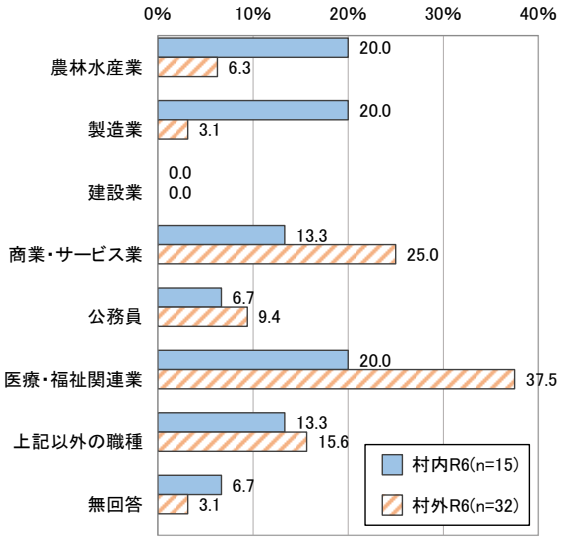
村内・村外ともに「給与」が最も多く、次いで「休みの日数」が多くなっています。村内と村外で差が大きい項目としては、「給与」（17.2 ポイント差）、「休みの日数」（9.6 ポイント差）、「通勤時間」（9.4 ポイント差）、「職場の人間関係」（8.5 ポイント差）となっています。



④　希望する仕事の分野

村内での就職・転職を希望する方は、村外と比べて、「農林水産業」「製造業」が多くなっています。

一方、村外での就職・転職を希望する方は、村内と比べて、「商業・サービス業」「医療福祉関連業」が多くなっています。



⑤　地域経済の活性化に向けた取組

「企業誘致、起業しやすい環境の整備などによる新規産業の創出」が 55.0%と最も多く、次いで「自然など本村の素材を生かした観光産業の振興」が 43.9%となっており、平成 27 年調査・令和元年調査においても同様です。

			R１結果	H27 結果
１位	企業誘致、起業しやすい環境の整備などによる新規産業の創出	55.0%	51.1%（１位）	57.0%（１位）
２位	自然など本村の素材を生かした観光産業の振興	43.9%	40.8%（２位）	42.0%（２位）
３位	６次産業化・ブランド化などによる農林水産業の振興	34.5%	29.3%（４位）	34.7%（３位）

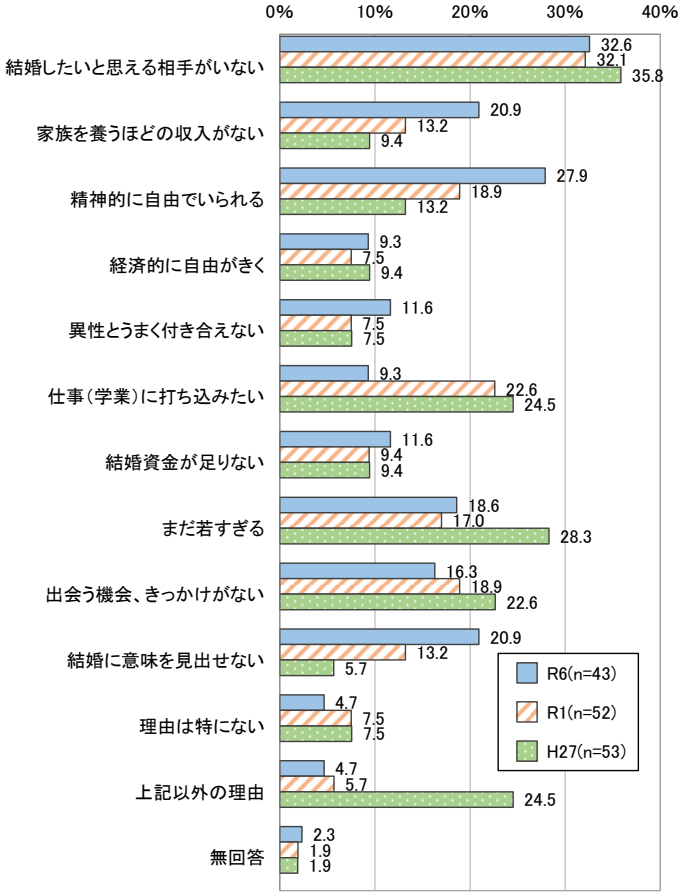
結婚、妊娠・出産、子育てについて（15～49 歳限定）

① 結婚していない理由

「結婚したいと思える相手がいない」が32.6%と最も多くなっており、平成27年調査・令和元年調査においても同様です。

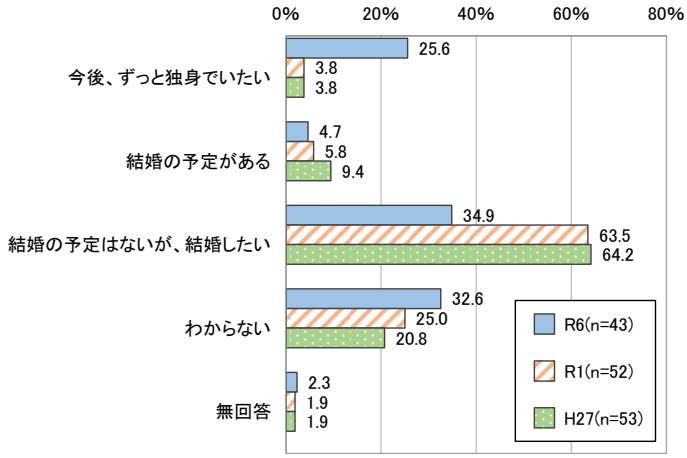
平成 27 年、令和元年、令和６年と徐々に伸びている理由として「家族を養うほどの収入がない」「精神的に自由でいられる」「結婚に意味を見出せない」が挙げられます。

また、「異性とうまく付き合えない」も平成 27 年調査・令和元年調査から増加傾向です。



② 結婚に関する希望

「結婚の予定はないが、結婚したい」が 34.9%と最も多くなっていますが、「今後、ずっと独身でいたい」が 25.6%と次いで多くなっており、平成 27 年調査・令和元年の調査から大きく増加しています。



③ 村が取り組むべき結婚支援事業

「若い夫婦への住まいの支援」が 60.8%と最も多く、次いで「安定した雇用の支援」「結婚祝い金などの経済的支援」となっており、順位は前後します。しかし、平成 27 年調査・令和元年調査においても、１位～３位の項目は変わっていません。

			R１結果	H27 結果
１位	若い夫婦への住まいの支援	60.8%	52.5%（２位）	61.7%（２位）
２位	安定した雇用の支援	55.9%	53.5%（１位）	47.7%（１位）
３位	結婚祝い金などの経済的支援	41.2%	31.7%（３位）	42.1%（３位）

④　現在・将来的・理想の子どもの数

平成 27 年調査・令和元年調査と比べ、令和６年調査では、「将来的な子どもの人数」「理想とする子どもの人数」が減少傾向となっています。

	R６結果（平均）	R１結果（平均）	H27 結果（平均）
現在の子どもの人数	1.13 人	1.01 人	1.06 人
将来的な子どもの人数	1.69 人	1.90 人	2.11 人
理想とする子どもの人数	2.29 人	2.33 人	2.43 人

⑤　理想とする子どもの数を持つのに障害となること

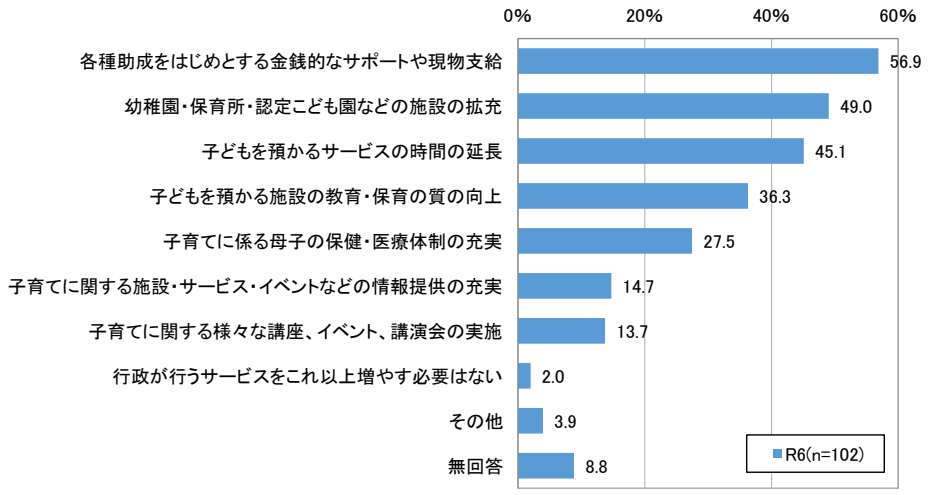
「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が 61.8%と最も多く、次いで「育児・出産の心理的・肉体的な負担」が 29.4%となっており、平成 27 年調査・令和元年調査と同様の結果です。

次いで多くなっている「年齢的な問題」については、令和元年調査では同様の３位ですが、平成 27 年調査では４位となっています。

			R１結果	H27 結果
１位	子育てや教育にお金がかかりすぎる	61.8%	67.6%（１位）	70.1%（１位）
２位	育児・出産の心理的・肉体的な負担	29.4%	24.8%（２位）	21.5%（２位）
３位	年齢的な問題	28.4%	23.8%（３位）	17.8%（４位）

⑥　出産・育児に関するサービスとして力を入れるべきこと

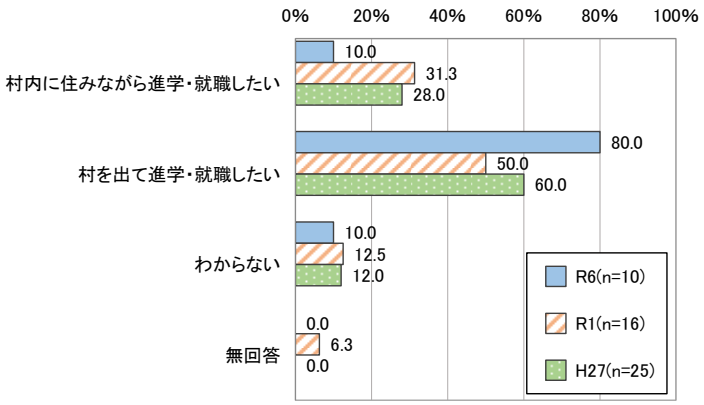
「各種助成をはじめとする金銭的なサポートや現物給付」が 56.9%と最も多く、次いで「幼稚園・保育所・認定こども園などの施設の拡充」が 49.0%、「子どもを預かるサービスの時間の延長」が 45.1%となっています。



今後の進路について（学生限定）

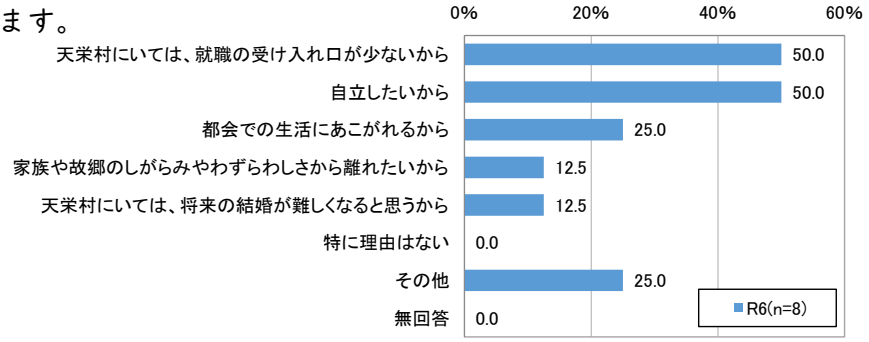
① 進学・就職時の居住予定地

「村内に住みながら進学・就職したい」が 10.0%となっているのに対し、「村を出て進学・就職したい」が 80.0%となっており、平成 27 年調査・令和元年調査と比べて増加傾向です。



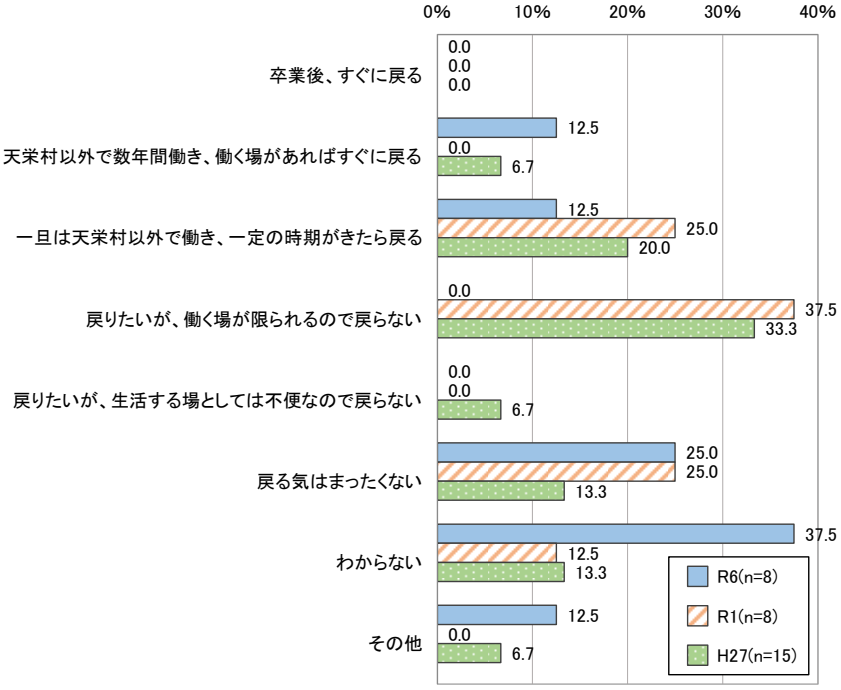
② 村を出て進学・就職したい理由

「天栄村にいては、就職の受け入れ口が少ないから」「自立したいから」が最も多く 50.0%となっています。



③ 村を出て進学・就職後、天栄村に戻りたいか

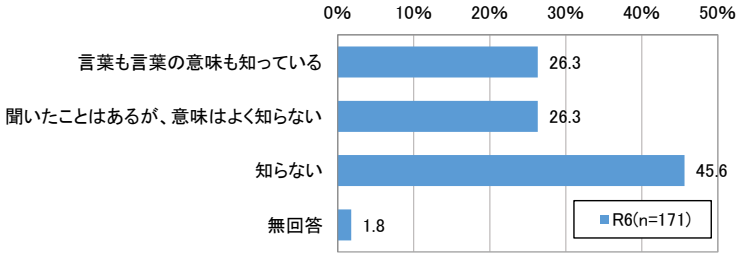
「わからない」が 37.5%と最も多くなっています。平成 27 年調査・令和元年調査と比べ「天栄村以外で数年間働き、働く場があればすぐに戻る」が多くなっています。



デジタルについて

① 「デジタル・トランスフォーメーション（ＤＸ）」の認知度

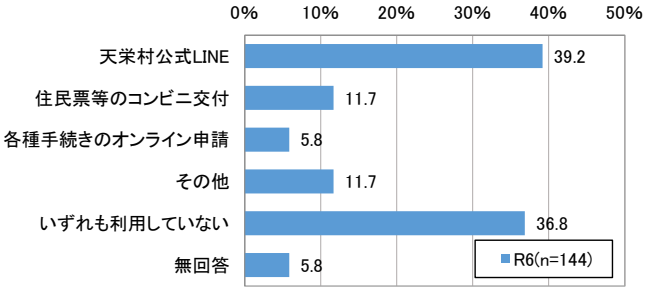
「言葉も言葉の意味も知っている」「聞いたことはあるが、意味はよく知らない」が 26.3%となっており、合わせると 52.6%と過半数となっています。



② 利用している村のデジタルサービス

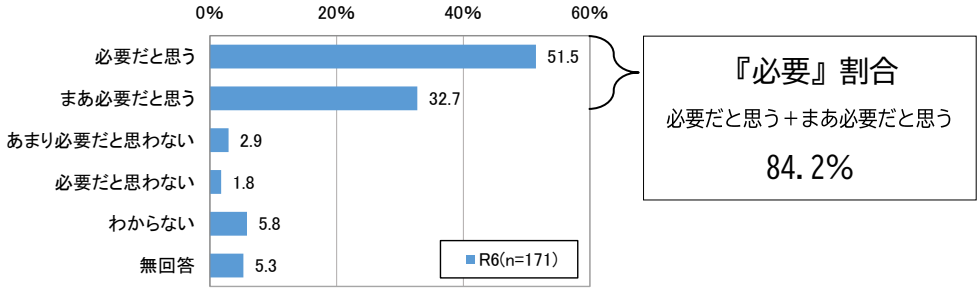
「天栄村公式 LINE」が 39.2%と最も多く、次いで「住民票等のコンビニ交付」が 11.7%となっています。

また、「いずれも利用していない」が 36.8%となっています。



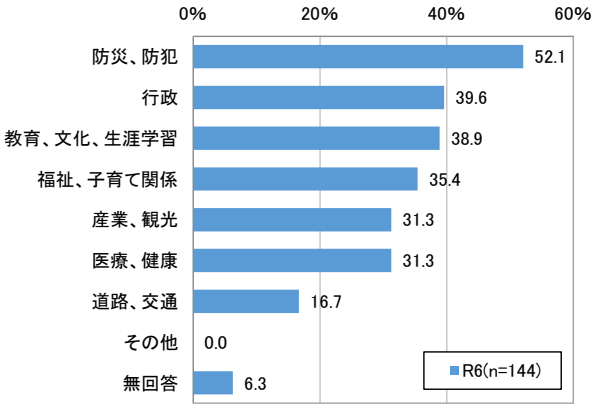
③ 村のデジタル化は必要か

「必要だと思う」（51.5%）と「まあ必要だと思う」（32.7%）を合わせた『必要』が 84.2%と多くを占めています。



④ デジタル化の推進として重要な分野

「防災、防犯」が 52.1%と最も多く、次いで「行政」が 39.6%、「教育、文化、生涯学習」が 38.9%となっています。



2　目指すべき将来の方向性

天栄村の人口に関する目指すべき将来の方向は、次の考えを基本とします。

■自然動態減少の抑制 ～ 結婚・出産に関する希望の実現 ～

「出会い」「結婚」「出産」「子育て」とそれぞれのステージに対応した切れ目のない支援体制の充実により、若い世代の結婚・出産に関する希望の実現をサポートし、出生数減少の抑制を図ります。

■社会動態減少の抑制 ～ 転入促進・転出抑制に向けた取組の推進 ～

住む場所と同時に、定住のための必須条件となる「働く場所」の確保とともに、住民誰もが暮らしやすいと思える生活環境を形成することによる転入促進・転出抑制を図り、転入超過への転換を目指します。

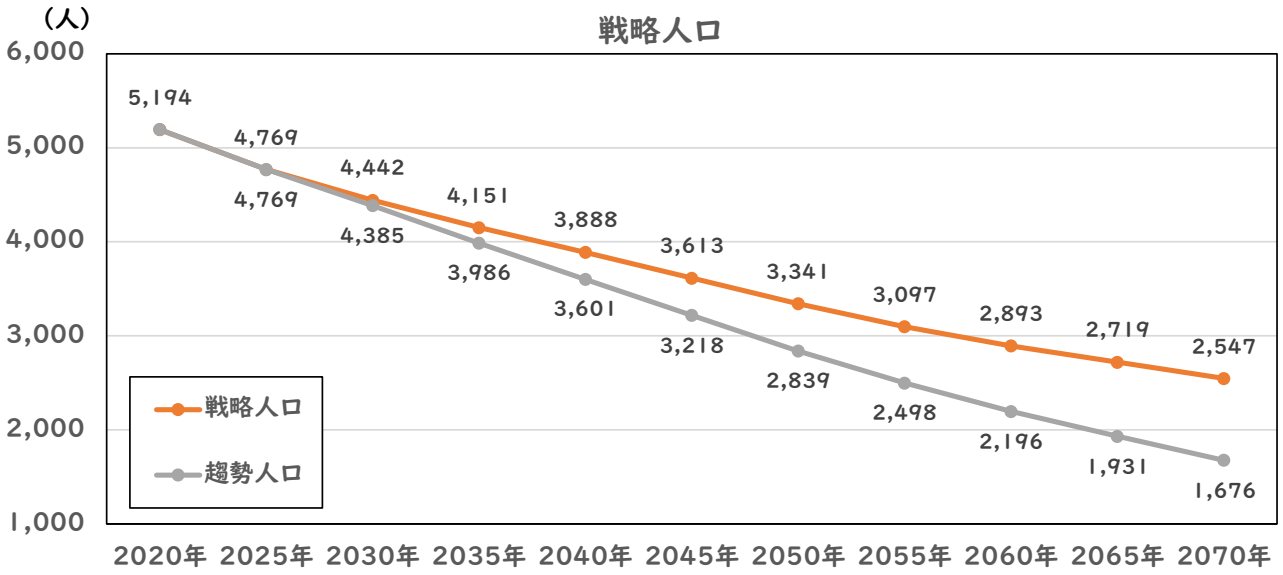
■人口減少社会を見据えたむらづくりの推進

現在の村の活気を今後も維持し、さらに向上させていくため、自然減少・社会減少を抑制する様々な取組を推進する一方で、人口減少社会を見据えた新たなむらづくりに取り組みます。

3　人口の将来展望

（１）戦略人口

少子高齢化、転出超過等の本村の人口問題に対して、長期的な視点から取り組むことにより、2070 年に 2,500 人程度の人口規模を目指します。



（人）

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	5,194	4,769	4,385	3,986	3,601	3,218	2,839	2,498	2,196	1,931	1,676
戦略人口	5,194	4,769	4,442	4,151	3,888	3,613	3,341	3,097	2,893	2,719	2,547
戦略効果	－	0	57	165	287	395	502	599	697	788	871

※戦略効果とは戦略人口と趨勢人口の差

なお、国のツールを用いて推計した戦略人口における、合計特殊出生率及び移動数のパラメータについては、次のように仮定しています（人口推計シミュレーション４と同様）。

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
合計特殊出生率	1.36	1.36	1.41	1.46	1.51	1.51	1.51	1.51	1.51	1.51	1.51
移動数（人）	－	-65	-8	31	69	82	83	81	74	66	61

【出生】
県のシミュレーションを踏まえ、合計特殊出生率が、2040 年までに福島県希望出生率「1.51」（ふくしま創生総合戦略（令和７～11 年度））まで上昇し、その後 1.51 を維持すると仮定。
【移動】
2025 年は趨勢人口と同様、2040 年以降に移動（純移動率）がゼロ（均衡）で推移すると仮定（趨勢人口で転入超過の年齢層は趨勢人口のまま）。2030～2035 年は 2025 年と 2040 年の差を均等配分で調整。総合戦略の施策の効果は、一定の時間をもって徐々に表れるものと想定。

（２）戦略人口に基づく将来展望

①　年齢構造の視点からの展望

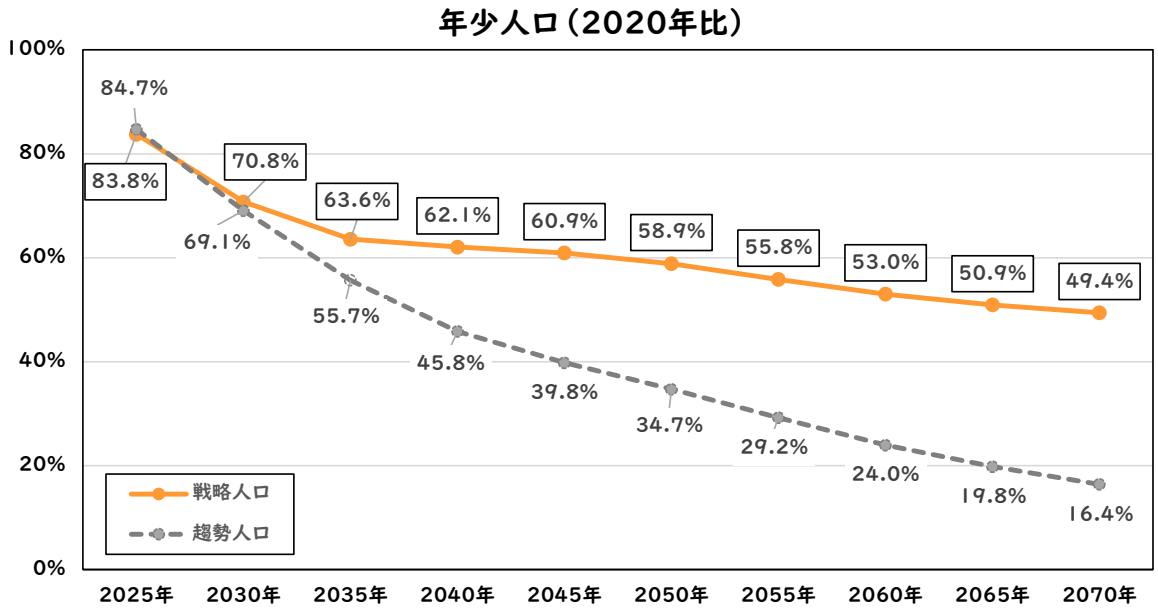
【年少人口】

○趨勢人口において、０～14 歳の年少人口は 2020 年の 530 人から 2070 年には 87 人になり、2020 年比で 16.4%の増減率になります。

○戦略人口において、０～14 歳の年少人口は 2020 年の 530 人から 2070 年には 262 人になり、2020 年比で 49.4%の増減率に抑制されます。

○戦略人口において、０～14 歳の年少人口比率は 2020 年の 10.2%から 2070 年には 10.3%になります。2025 年には 10%以下になることが予測されており、結婚や出産、子育てを支援する施策が急務とされています。また、世界的な物価上昇が国内経済に影響を与える中、高齢化に伴う人口構造の変化が進行しています。このような状況下で、形骸化した社会保障制度による負担の増加が若者の経済的な負担をさらに重くしています。このような状況が、結婚や出産からの距離をさらに広げていると考えられます。

○現実的な年少人口の減少によって、これまで通りの教育環境の維持が難しくなる中、合理的かつ実効的な教育環境の維持・管理が必要になってきます。



年少（0～14歳）		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
年少人口	趨勢人口	530人	449人	366人	295人	243人	211人	184人	155人	127人	105人	87人
	戦略人口	530人	444人	375人	337人	329人	323人	312人	296人	281人	270人	262人
2020年からの増減率	趨勢人口	－	84.7%	69.1%	55.7%	45.8%	39.8%	34.7%	29.2%	24.0%	19.8%	16.4%
	戦略人口	－	83.8%	70.8%	63.6%	62.1%	60.9%	58.9%	55.8%	53.0%	50.9%	49.4%
構成比	趨勢人口	10.2%	9.4%	8.3%	7.4%	6.7%	6.6%	6.5%	6.2%	5.8%	5.4%	5.2%
	戦略人口	10.2%	9.3%	8.4%	8.1%	8.5%	8.9%	9.3%	9.6%	9.7%	9.9%	10.3%

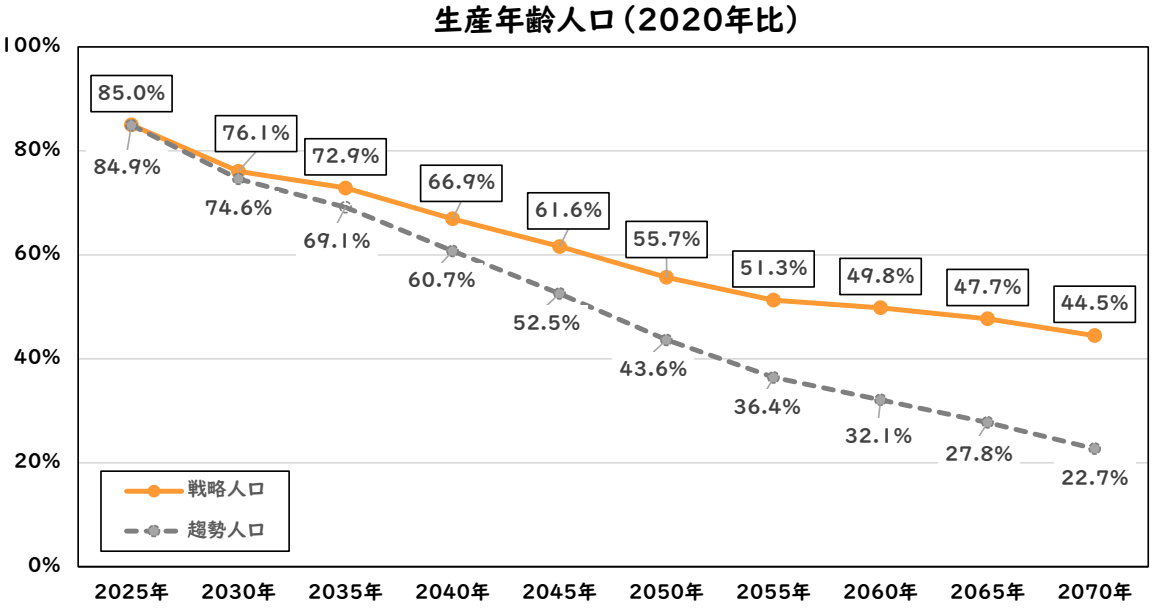
【生産年齢人口】

○趨勢人口において、15～64 歳の生産年齢人口は 2020 年の 2,748 人から 2070 年には 624 人になり、2020 年比で 22.7%の増減率になります。

○戦略人口において、15～64 歳の生産年齢人口は 2020 年の 2,748 人から 2070 年には 1,222 人になり、2020 年比で 44.5%の増減率に抑制されます。

○戦略人口において、15～64 歳の生産年齢人口比率は、2020 年の 52.9%から 2070 年には 48.0%になります。

○15～64 歳の生産年齢人口は地域の経済活動を支える重要な労働力であり、社会インフラや社会保障の維持に寄与しています。この人口が減少すると、労働力不足や経済規模の縮小、さらには社会保障の縮小といった問題が生じる可能性があります。したがって、従来の枠にとらわれない合理的なアプローチによって生産性を向上させる政策が必要とされています。



生産年齢（15～64歳）		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
生産年齢人口	趨勢人口	2,748人	2,334人	2,050人	1,900人	1,669人	1,444人	1,199人	1,001人	882人	763人	624人
	戦略人口	2,748人	2,336人	2,090人	2,002人	1,839人	1,693人	1,530人	1,409人	1,369人	1,311人	1,222人
2020年からの増減率	趨勢人口	－	84.9%	74.6%	69.1%	60.7%	52.5%	43.6%	36.4%	32.1%	27.8%	22.7%
	戦略人口	－	85.0%	76.1%	72.9%	66.9%	61.6%	55.7%	51.3%	49.8%	47.7%	44.5%
構成比	趨勢人口	52.9%	48.9%	46.8%	47.7%	46.3%	44.9%	42.2%	40.1%	40.2%	39.5%	37.2%
	戦略人口	52.9%	49.0%	47.1%	48.2%	47.3%	46.9%	45.8%	45.5%	47.3%	48.2%	48.0%

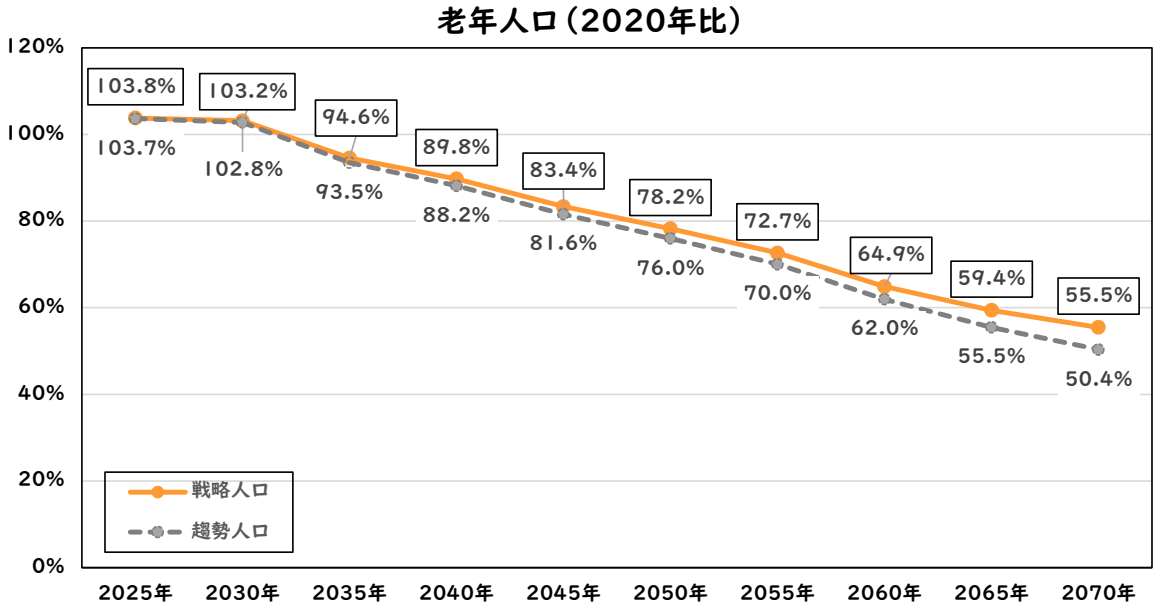
【高齢者人口】

○趨勢人口において 65 歳以上の老年人口は、2020 年の 1,916 人から 2070 年には 965 人になり、2020 年比で 50.4%の増減率になります。

○戦略人口において 65 歳以上の老年人口は、2020 年の 1,916 人から 2070 年には 1,063 人になり、2020 年比で 55.5%の増減率になります。

○戦略人口において 65 歳以上の老年人口比率は、2020 年の 36.9%から 2070 年には 41.7%になります。

○65 歳以上の高齢者人口は、年金や介護等の社会保障を受ける立場の人が短期的には増加する一方で、活力に満ちた高齢者も存在し、労働力としての貢献が期待されます。高齢者の労働力を活用することは、生産年齢人口の減少による労働力不足を補うためにも、介護予防の観点からも重要です。

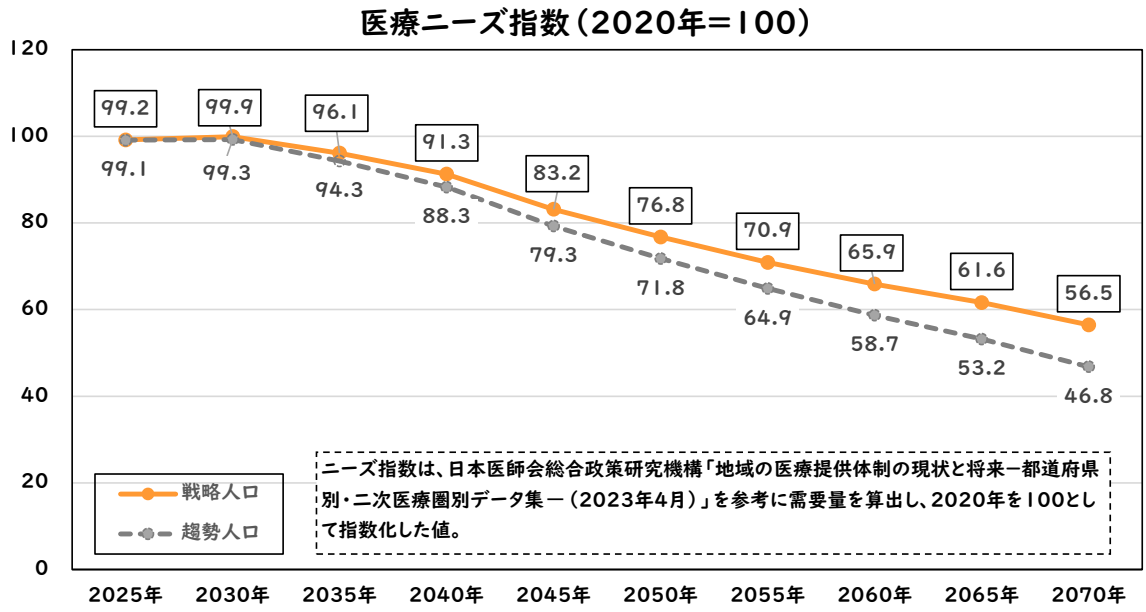


老年（65歳～）		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
老年人口	趨勢人口	1,916人	1,986人	1,969人	1,791人	1,689人	1,563人	1,456人	1,342人	1,187人	1,063人	965人
	戦略人口	1,916人	1,989人	1,977人	1,812人	1,720人	1,597人	1,499人	1,392人	1,243人	1,138人	1,063人
2020年からの増減率	趨勢人口	－	103.7%	102.8%	93.5%	88.2%	81.6%	76.0%	70.0%	62.0%	55.5%	50.4%
	戦略人口	－	103.8%	103.2%	94.6%	89.8%	83.4%	78.2%	72.7%	64.9%	59.4%	55.5%
構成比	趨勢人口	36.9%	41.6%	44.9%	44.9%	46.9%	48.6%	51.3%	53.7%	54.1%	55.0%	57.6%
	戦略人口	36.9%	41.7%	44.5%	43.7%	44.2%	44.2%	44.9%	44.9%	43.0%	41.9%	41.7%

② 医療・介護の視点からの展望

【医療ニーズ】

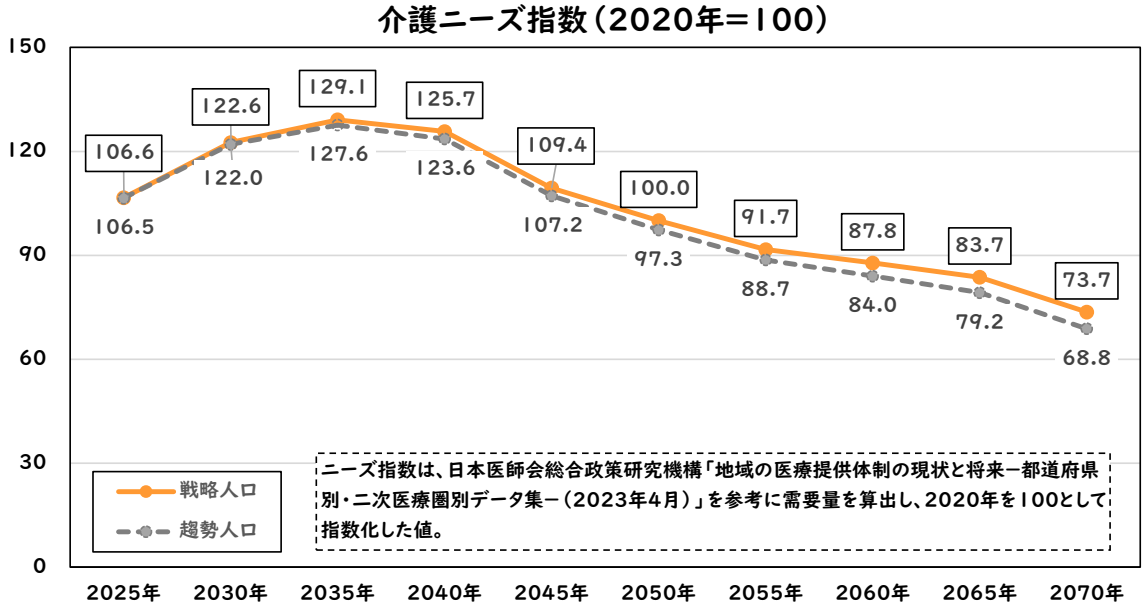
○医療ニーズは現状からの増大は見込まれず、縮小することが予測されます。



【介護ニーズ】

○介護ニーズは現状から 2035 年まで拡大し、その後は縮小することが予測されます。

○そのため、今後の介護サービスにおいては、長期的な視点から施設やサービスの整備・充実を進めることや、人員の確保に関する政策が必要になると考えられます。



（３）まとめとしての将来展望

〇戦略人口目標を達成するためには、地域における雇用機会の創出や安定した雇用の確保、本村への移住・定住促進を図ることが重要です。また、結婚や出産・子育てに関する現実と理想のギャップを解消するための環境整備や、結婚・出産・子育ての包括的な支援の強化、家庭や地域等が協働して子育てを行うことができる環境づくりに向けた取組が求められます。

〇さらに、人口減少の時代に適応した地域社会の構築に向けた取組を進めることも重要で、地域の魅力増進を図り、村の活気の維持に向けた取組を推進し、観光等の人の流れを創るとともに、村民の幸福度(Well-being)の向上に向けた取組を進めていくことも必要です。

〇本村の人口減少を可能な限り抑制する取組を通じて、地域経済の縮小を緩和し、雇用や労働力人口を維持することが重要です。これにより、地域経済や地域社会に対する人口減少の影響を最小限に抑えることが求められます。また、デジタル技術やＤＸを活用した村民の利便向上を図るとともに、そういった新しい技術等を活用した業務効率化や生産性の向上にむけた取組を進めることで、人材不足の解消や新たな人材の確保に繋げることが必要です。

〇天栄村の未来をともに考え、地域の豊かな資源と安心・快適な生活を次世代に引き継ぐために、戦略的な人口目標を達成する地方創生の取組を「天栄村総合戦略」として明示し、その実行を確実に進めていくこととします。